

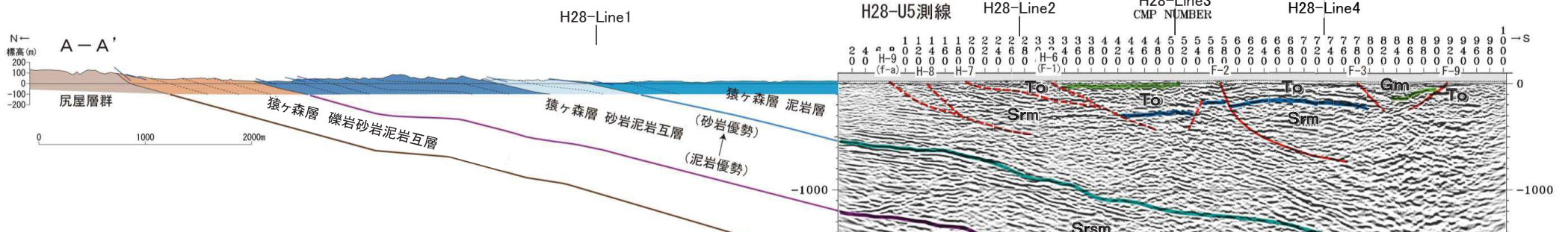
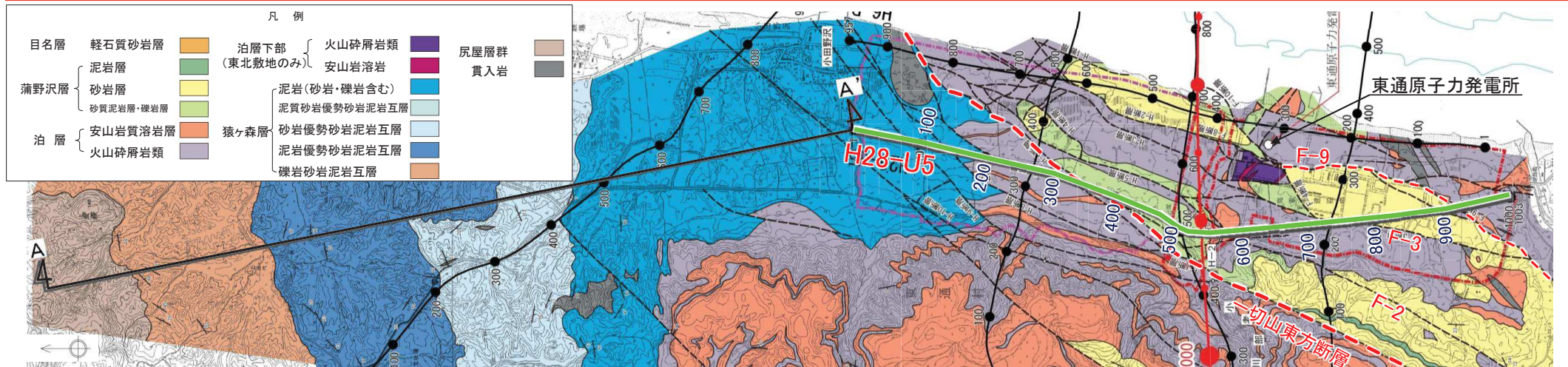
## 6. 敷地～敷地近傍の断層

---

- 6.1 敷地～敷地近傍の地形, 地質・地質構造の概要
- 6.2 敷地～敷地近傍の断層と評価の概要
- 6.3 敷地～敷地近傍の震源として考慮する活断層の評価
  - 6.3.5 断層の地下深部への連続性
    - 6.3.5.1 反射法地震探査の概要
    - 6.3.5.2 反射法地震探査結果の層序区分
    - 6.3.5.3 敷地～敷地近傍の断層の地下深部への連続性
  - 6.3.6 敷地～敷地近傍の地下深部地質構造
- 6.4 まとめ

余 白

# 南北測線における層序の検討:H28-U5測線の層序区分(従来)



地質時代	陸域	海域
第4紀	完新世 新砂丘堆積物	A層
	後期 沖積層	B層
	中期 段丘堆積物	C層
第3紀	前期 砂子又層	D層
	後期 目名層	Mn
第2紀	中期 蒲野沢層	Gm
	前期 泊層	To
	前期 泥岩層	Srm
第1紀	前期 猿ヶ森層 砂岩泥岩互層	Srsm
	前期 礫岩砂岩泥岩互層	Srg
先新第三紀	尻屋層群	Sy

➢ H28-U5測線にみられる「振幅が大きく反射強度の強い反射面」と、地表地質調査等により確認された敷地北方陸域の地質分布及び地質構造との対応から、基盤をなす尻屋層群(Sy)、中新統猿ヶ森層の礫岩砂岩泥岩互層(Srg)、砂岩泥岩互層(Srsm)及び泥岩層(Srm)に区分していた。

⇒ 層序区分の信頼性向上を目的として、敷地北方から敷地にかけて、反射法地震探査及びボーリング調査を実施(次頁)。

※1 反射法地震探査結果の層序区分にあたり、猿ヶ森層については、泥岩からなる泥岩層(Srm)、砂岩優勢砂岩泥岩互層及び泥岩優勢砂岩泥岩互層からなる砂岩泥岩互層(Srsm)並びに礫岩砂岩泥岩互層からなる礫岩砂岩泥岩互層(Srg)に区分する。

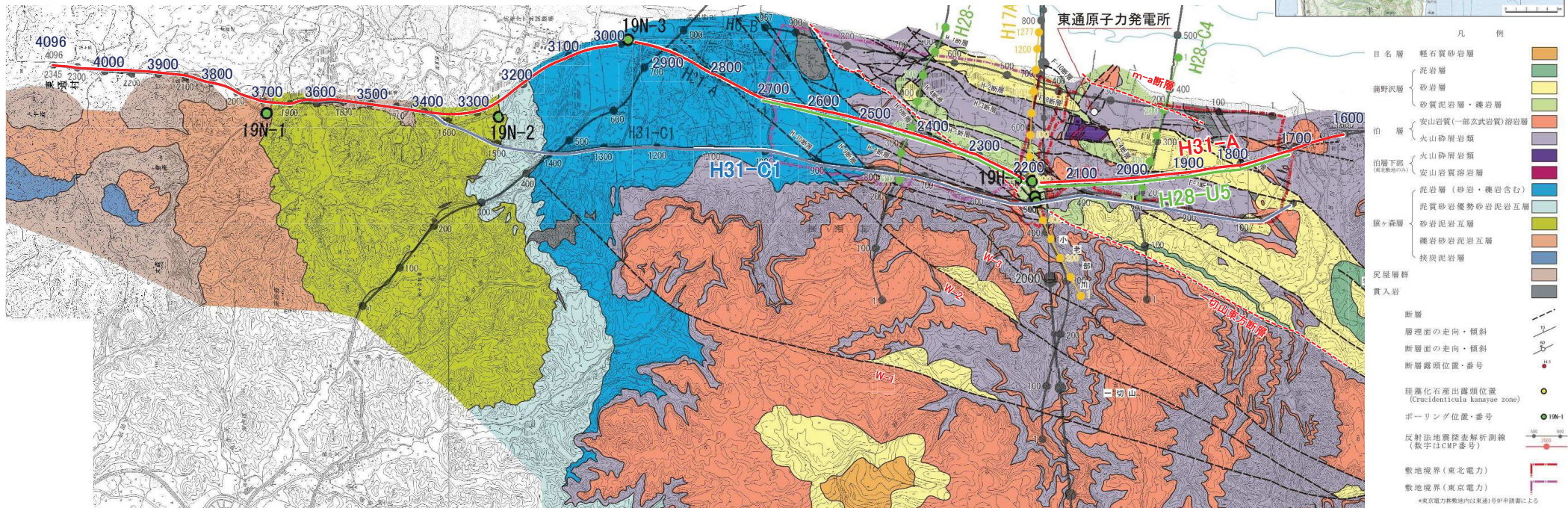
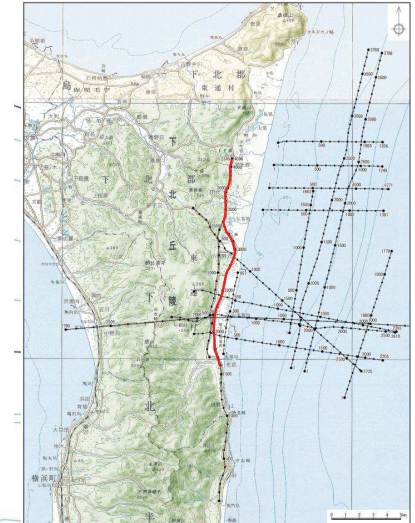
※2 敷地内において泊層下部層と猿ヶ森層の一部に指交関係が認められるが、反射法地震探査の分解能の観点から、反射法地震探査結果の層序区分においては、泊層下部層を猿ヶ森層泥岩層(Srm)に含めて区分することとする。

マイグレーション深度断面(縦横比1:1)

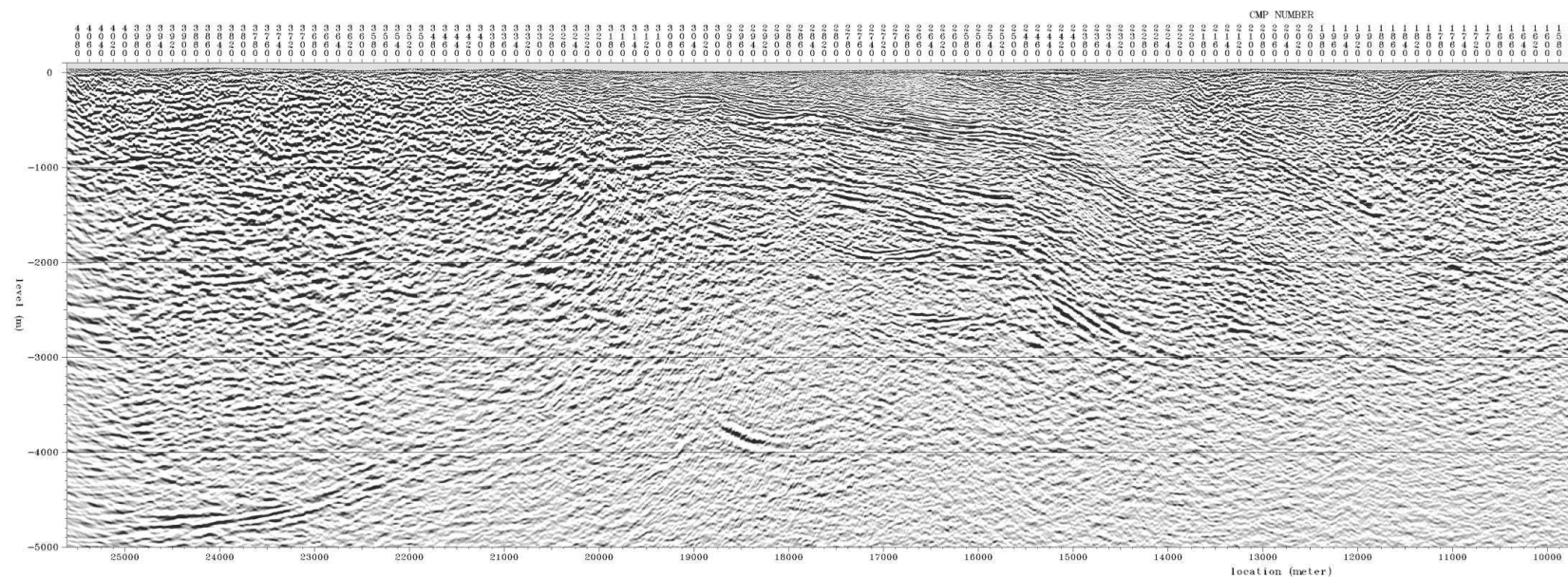
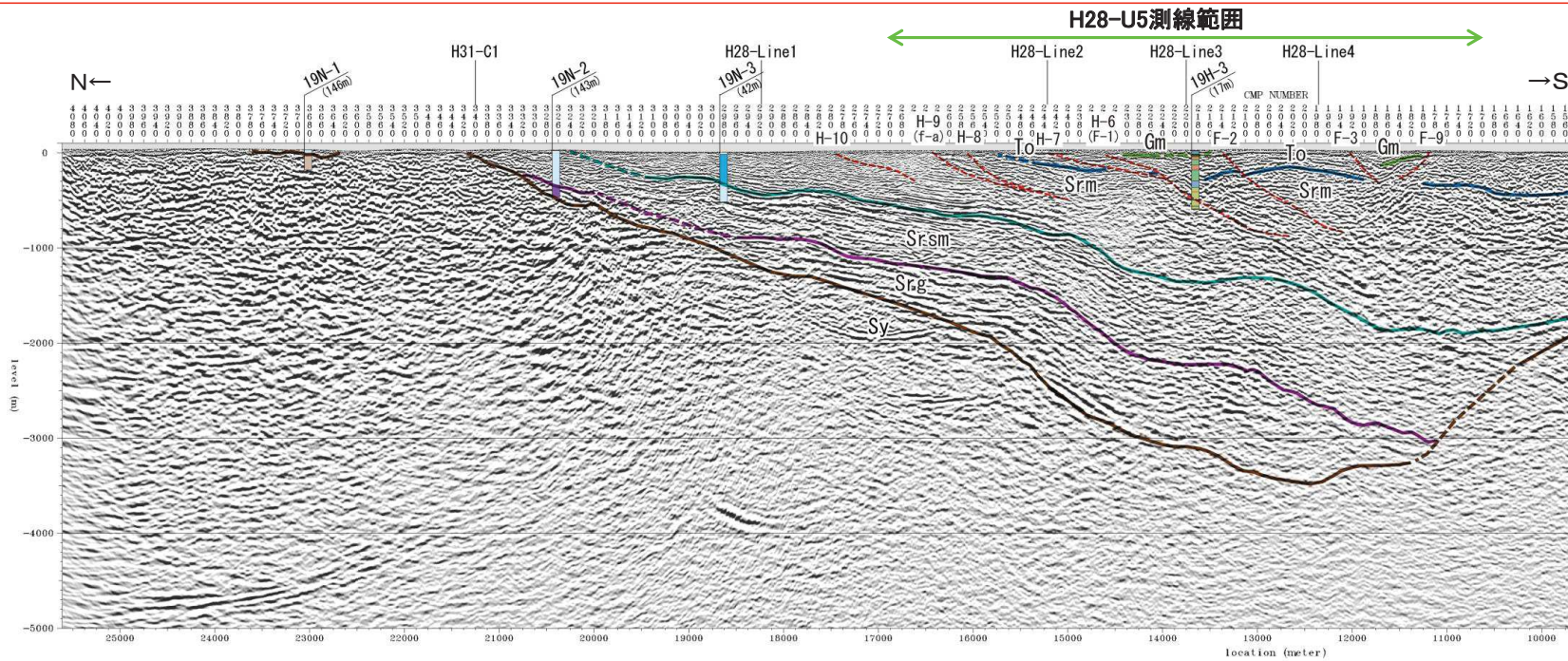
# 南北測線における層序の検討：H31-A測線における地質層序の検討①

敷地北方の尻屋層群分布域を起点に、敷地～敷地近傍を南北に縦断する反射法地震探査(H31-A測線及びH31-C1測線)を実施した。合わせて、地下深部の地質状況を直接確認することを目的にボーリング調査(19N-1孔, 19N-2孔, 19N-3孔及び19H-3孔)を実施するとともに、猿ヶ森層の詳細な層序検討を目的として地表地質踏査を実施した。

- ボーリング調査結果やボーリング地点付近に分布する猿ヶ森層の岩相との対応を踏まえ、猿ヶ森層の層序区分及び地質分布について検討した。
    - ✓ 確認された岩相に基づき、猿ヶ森層の層序区分を下位より「挟炭泥岩層(Srg)」、礫岩砂岩泥岩互層及び砂岩泥岩互層からなる「砂岩泥岩礫岩互層(Srsm)」並びに泥質砂岩優勢砂岩泥岩互層及び泥岩層からなる「泥岩層(Srm)」に整理し、区分した。
    - ✓ 敷地近傍の地質図について、地表地質踏査の結果に基づき、猿ヶ森層の層序区分を踏まえた地質分布を反映した。
  - 敷地から北方にかけて、連続的な反射法地震探査結果(H31-A測線)が得られた。
    - ✓ H28-U5測線範囲においては、H28-U5測線と同様の品質の反射法地震探査結果が得られるとともに、同範囲北方への反射面の追跡が可能となった。
  - ボーリング調査(次々頁)により、従来の解釈から想定されていた層序区分の地質境界を直接確認した。
    - ✓ 19N-3孔において、猿ヶ森層の泥岩層(Srm)／砂岩泥岩礫岩互層(Srsm)境界を確認。
    - ✓ 19N-2孔において、猿ヶ森層の砂岩泥岩礫岩互層(Srsm)／挟炭泥岩層(Srg)境界及び猿ヶ森層の挟炭泥岩層(Srg)／尻屋層群(Sy)境界を確認。
  - ボーリング調査にて確認された各々の地質境界は、明瞭な反射面と良く対応しており、敷地まで連続的に追跡が可能であることを確認。
  - 反射法地震探査及びボーリング調査より決定された地質分布・地質構造は、従来の評価と概ね同様であることを確認した。
    - ✓ 北側より、基盤をなす尻屋層群(Sy)を覆って、中新統猿ヶ森層の挟炭泥岩層(Srg)、砂岩泥岩礫岩互層(Srsm)及び泥岩層(Srm)が分布しており、南側に10～30°程度傾斜している。
- ⇒ 従来の層序区分から信頼性が向上するとともに、強い反射面は明瞭な地質境界に対応しているとする考えに基づいた従来の層序区分についても合理的なものであったことが確認された。



# 南北測線における層序の検討: H31-A測線における地質層序の検討②



地質時代	陸域	海域	
第 四 紀	更新世 完新世	新砂丘堆積物 沖積層	A層
	更新世 後期	段丘堆積物	B層
	更新世 中期		C層
新 鮮 世	前期	砂子又層	D層
	後期	目名層	Mn
新 三 紀	中期	蒲野沢層	Gm
	前期	泊層 ※2 泥岩層 猿ヶ森層 砂岩泥岩互層 ※1 挟炭泥岩層	To Sr.m Sr.sm Srg
	先新第三紀	灰屋層群	Sy G層

※1 反射法地震探査結果の層序区分に当たり、猿ヶ森層については、下位より、「挟炭泥岩層(Srg)」、礫岩砂岩泥岩互層及び砂岩泥岩互層からなる「砂岩泥岩互層(Srsm)」並びに泥質砂岩優勢砂岩泥岩互層及び泥岩層からなる「泥岩層(Srm)」に区分する。

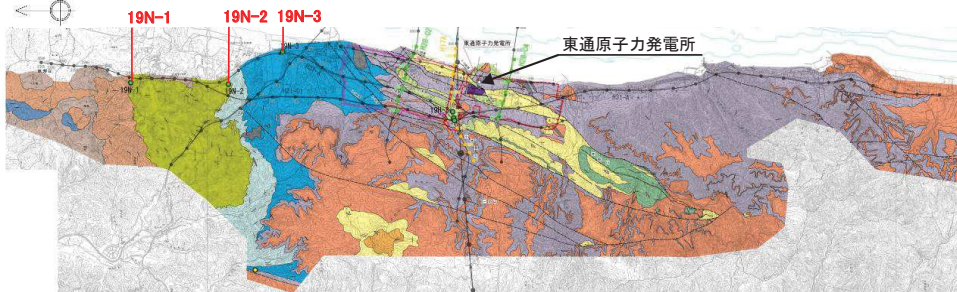
※2 敷地内において泊層下部層と猿ヶ森層の一部に指交関係が認められるが、反射法地震探査の分解能の観点から、反射法地震探査結果の層序区分においては、泊層下部層を猿ヶ森層泥岩層(Srm)に含めて区分することとする。

H31-A マイグレーション深度断面(縦横比1:1)

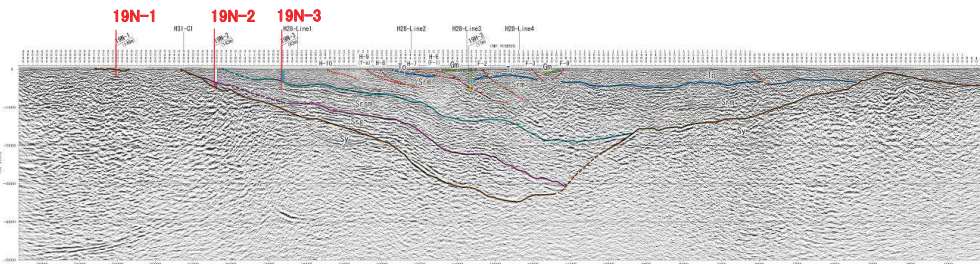
### 6.3.5.2 反射法地震探査結果の層序区分

## 南北測線における層序の検討: 猿ヶ森層の層序区分(19N-1~19N-3孔柱状対比図)

- 敷地近傍の猿ヶ森層の地質分布及び地質構造を踏まえて、19N-1~19N-3孔の調査結果に基づき、敷地近傍の猿ヶ森層は、岩相、化石相等から下位よりSa~Sd部層に細区分される。
- ✓ Sa部層は、尻屋層群を覆って角礫岩が分布し、主に泥岩より構成され、石炭を挟在する。
- ✓ Sb部層は、主に砂岩、礫岩より構成される。
- ✓ Sc部層は、主に砂岩、泥岩より構成され、一部に貝化石を含み、部分的に礫岩を挟む。
- ✓ Sd部層は、主に泥岩より構成され、貝類、ウニ類、ウミユリ、有孔虫の化石を含む。
- Sa部層は猿ヶ森層の挟炭泥岩層(Srg)に、Sb部層及びSc部層は同砂岩泥岩礫岩互層(Srsm)に、Sd部層は同泥岩層(Srm)に対応する。



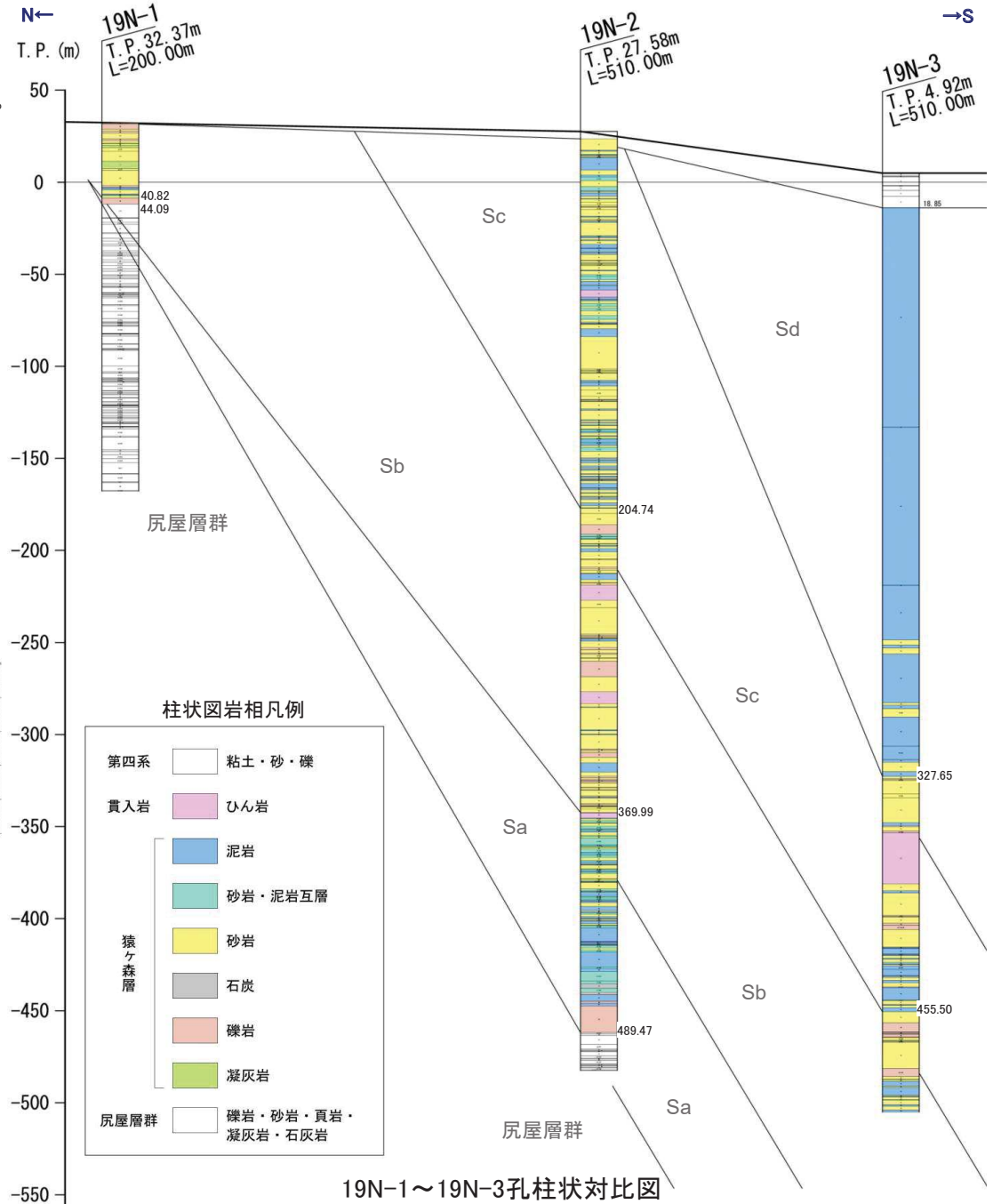
ボーリング位置図(平面)



ボーリング位置図(反射法断面)

敷地近傍北部の猿ヶ森層の層序区分

部層名	岩相	化石	堆積環境等
Sd	泥岩を主とする	二枚貝, 巻貝, ウミユリ, 有孔虫, ウニ類, サガリテス	漸深海帯
Sc	砂岩, 泥岩を主とする	二枚貝, 巻貝, サガリテス, 炭化植物片, 生物擾乱痕	下浅海帯以深
Sb	砂岩, 礫岩を主とする	炭化植物片, 生物擾乱痕	下浅海帯
Sa	基底は角礫岩よりなり, 泥岩を主とし, 石炭を挟在する	炭化植物片, 生物擾乱痕	陸水~汽水域

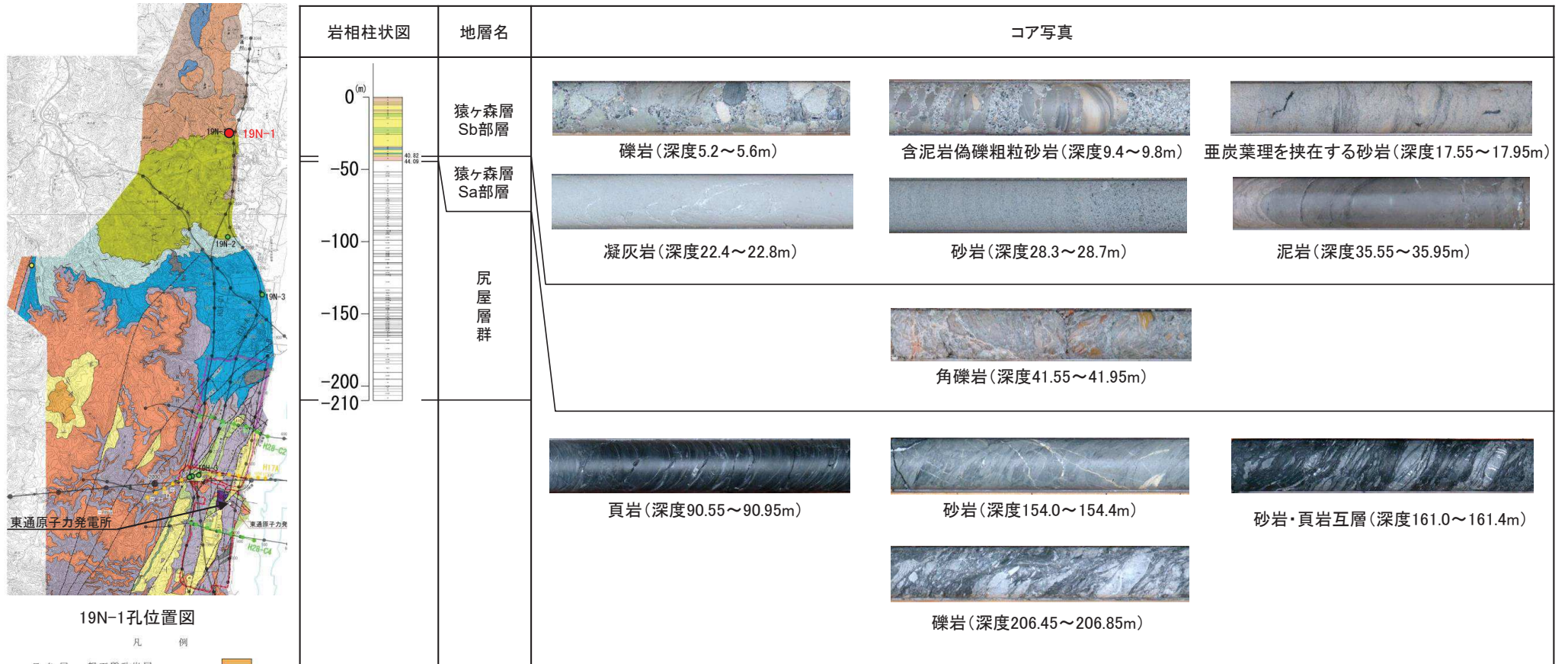


19N-1~19N-3孔柱状対比図

### 6.3.5.2 反射法地震探査結果の層序区分

## 南北測線における層序の検討: 敷地近傍北部の猿ヶ森層, 尻屋層群の岩相(19N-1孔)

- 19N-1孔の尻屋層群は、主に砂岩・頁岩互層より構成され、部分的に礫岩を挟む。
- 猿ヶ森層のSa部層は、19N-1孔では角礫岩より構成される。Sb部層は、主に砂岩、礫岩より構成され、泥岩を挟む。

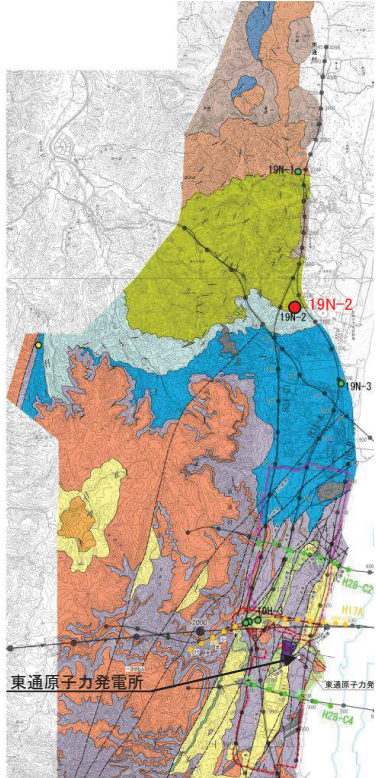


19N-1孔の岩相

### 6.3.5.2 反射法地震探査結果の層序区分

## 南北測線における層序の検討: 敷地近傍北部の猿ヶ森層, 尻屋層群の岩相(19N-2孔)

- 19N-2孔の尻屋層群は、砂岩・頁岩互層、凝灰岩、礫岩より構成される。
- 猿ヶ森層のSa部層は、19N-2孔では基底部に角礫岩が分布し、主に泥岩より構成され、石炭を挟在する。Sb部層は、主に砂岩、礫岩より構成され、泥岩を挟む。Sc部層は、主に砂岩、泥岩より構成され、一部に礫岩を挟む。



19N-2孔位置図



岩相柱状図	地層名	コア写真		
	第四系			
	猿ヶ森層 Sc部層	粒度変化する砂岩(深度22.2~22.6m) ms ss	礫岩・砂岩互層(深度48.0~48.4m) ss li	砂岩中の泥岩偽礫(深度53.2~53.6m)
		泥岩(深度57.1~57.5m)	砂岩・亜炭互層(深度154.2~154.6m) ms tf ms	泥岩(深度165.6~166.0m) ms ss ms
		砂岩(深度176.5~176.9m)	泥岩中の凝灰岩(深度183.4~183.8m)	砂岩・泥岩互層(深度198.3~198.7m)
	猿ヶ森層 Sb部層	礫岩(深度215.5~215.9m)	礫岩(深度290.0~290.4m)	砂岩(深度299.6~300.0m)
		泥岩(深度344.6~345.0m)	砂岩(深度359.45~359.85m)	砂岩・礫岩互層(深度364.15~364.55m)
猿ヶ森層 Sa部層	凝灰岩(深度388.60~390.0m)	砂岩(深度404.3~404.7m)	砂岩・泥岩互層(深度458.2~458.6m)	
	石炭(深度463.2~463.6m)	泥岩(深度471.5~471.9m)	角礫岩(深度484.5~484.9m)	
尻屋層群	凝灰岩(深度501.3~501.7m)	砂岩・頁岩互層(深度504.5~504.9m)		

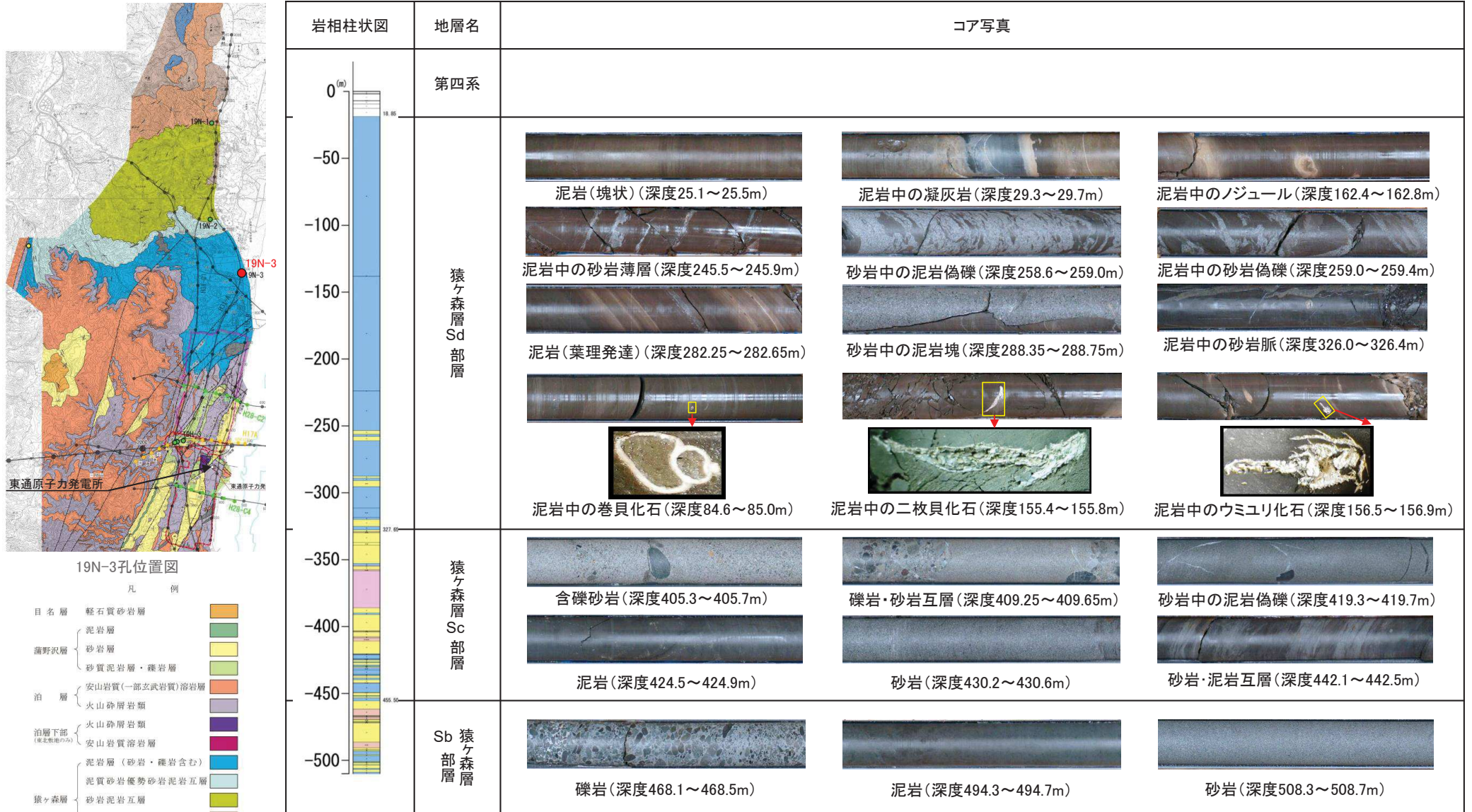
19N-2孔の岩相



### 6.3.5.2 反射法地震探査結果の層序区分

## 南北測線における層序の検討: 敷地近傍北部の猿ヶ森層の岩相, 化石(19N-3孔)

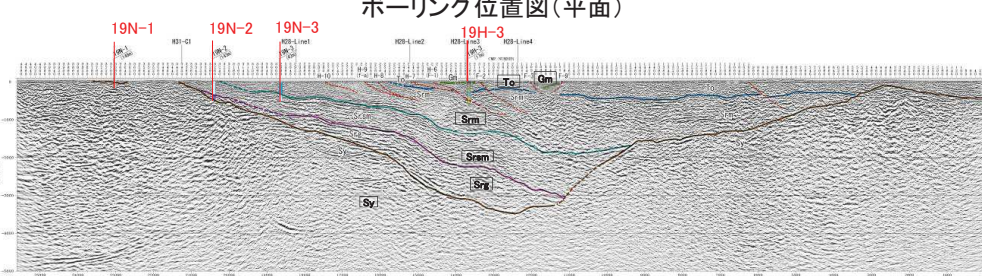
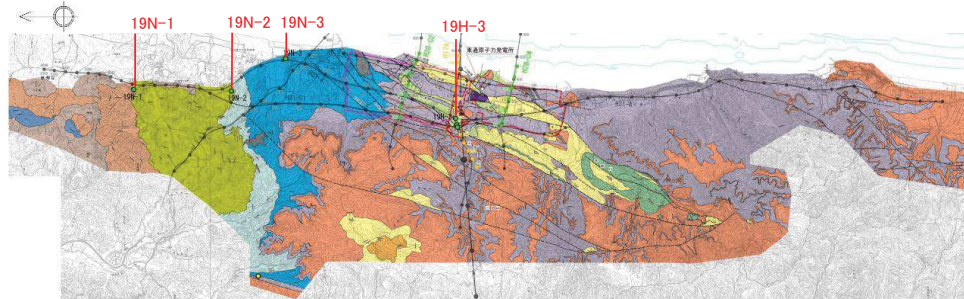
➤ 19N-3孔の猿ヶ森層Sb部層は、主に砂岩、礫岩より構成され、下部に泥岩を挟む。Sc部層は主に砂岩、泥岩より構成され、一部に貝化石を含む。Sd部層は主に泥岩より構成され、二枚貝、巻貝、ウミウリ、有孔虫、ウニ類、サガリテス等の化石を含み、下部に砂岩を挟む。



19N-3孔の岩相

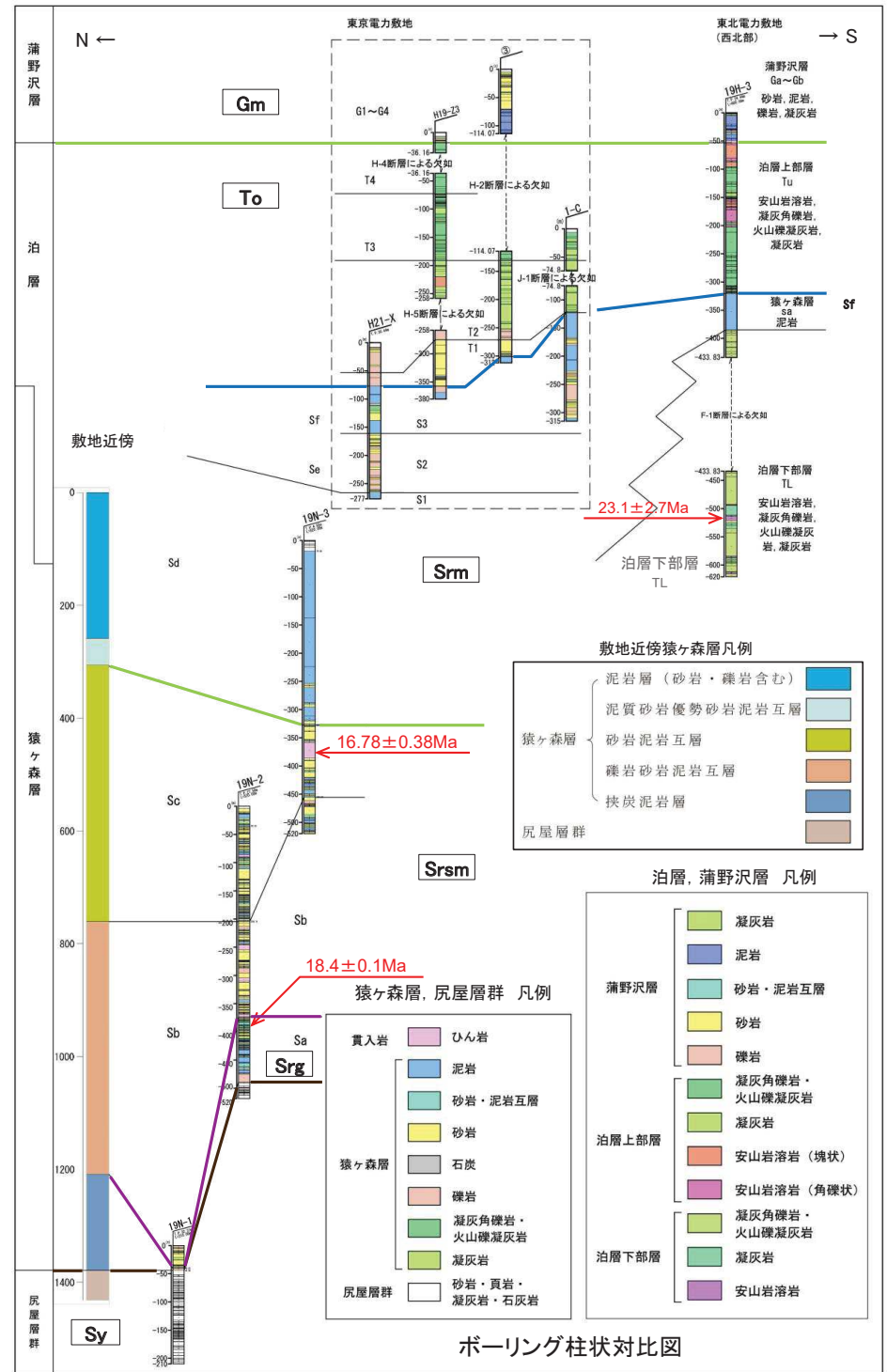
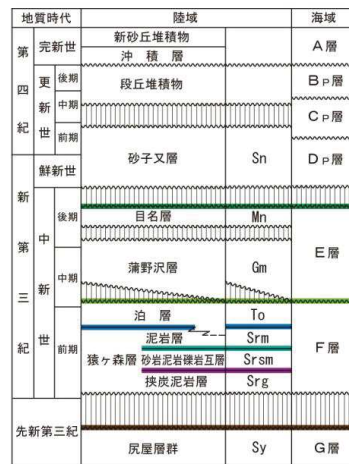
# 南北測線における層序の検討: 敷地～敷地近傍の猿ヶ森層の層序

- ▶ 敷地北方及び敷地のボーリング調査(19N-1孔～19N-3孔, 19H-3孔)に加えて, 地表地質踏査, 東京電力HD(株)敷地及び東北電力(株)敷地の既往調査より, 猿ヶ森層の全体像を把握し, 猿ヶ森層の層序について整理した結果, ボーリング柱状対比図に示すように, 猿ヶ森層はSa～Sf部層に細区分される。
  - ✓ このうち, 敷地北方の猿ヶ森層は, 前述のとおり, 岩相, 化石相等からSa～Sd部層に細区分される。
  - ✓ Sd～Sf部層は, 東京電力HD(株)敷地で確認されている S1～S3 部層に対応している。
  - ✓ 東北電力(株)敷地北西部(19H-3孔)では, 猿ヶ森層最上部のSf部層が確認され, この下位に泊層下部層が分布する(指交関係)。
- ▶ 反射法地震探査結果の層序は, 「挟炭泥岩層(Srg)」がSa部層に, 「砂岩泥岩礫岩互層(Srsm)」がSb～Sc部層に, 「泥岩層(Srm)」がSd～Sf部層及に対応する。なお, 前述のとおり, 反射法地震探査の分解能の観点から, 猿ヶ森層の泥岩層(Srm)と指交関係にある泊層下部層は猿ヶ森層の泥岩層(Srm)に含めている。



ボーリング位置図(反射法断面)  
猿ヶ森層の層序区分

部層名	岩相	化石
Sf	泥岩, 砂岩, 礫岩, 軽石質砂岩 (東京電力敷地では凝灰角礫岩, 火山礫凝灰岩を挟む)	二枚貝
Se	砂岩, 礫岩を主とする	未確認
Sd	泥岩を主とする	二枚貝, 巻貝, ウミユリ, ウニ類, 有孔虫, サガリテス
Sc	砂岩, 泥岩を主とする	二枚貝, 巻貝, サガリテス, 炭 化植物片, 生物擾乱痕
Sb	砂岩, 礫岩を主とする	炭化植物片, 生物擾乱痕
Sa	基底は角礫岩よりなり, 泥岩を主と し, 石炭を挟在する	炭化植物片, 生物擾乱痕



ボーリング柱状対比図

# 南北測線における層序の検討: 敷地～敷地近傍の猿ヶ森層の年代

- 敷地北方及び敷地に分布する猿ヶ森層はSa～Sf部層に細区分され、東北電力(株)敷地北西部(19H-3孔)では、猿ヶ森層最上部の下位に泊層下部層が分布する(指交関係)。
- 猿ヶ森層Sa部層の凝灰岩に含まれるジルコンのU-Pb年代測定結果は 18.4±0.1 Maであり、従来通り猿ヶ森層の年代は前期中新世と判断される。
- 一方、猿ヶ森層Sc部層に貫入するひん岩のK-Ar年代測定結果は16.78±0.38 Maであり、前期中新世と判断される。

U-Pb年代測定結果 (測定機関: 株式会社フィッショントラック)

試料名	ボーリング名	地層名	岩相	測定鉱物	処理試料量 (kg)	抽出結晶量 (個)	U-Pb年代 (Ma)	年代測定装置
	採取深度							
	19N-2 388.79-388.92m	猿ヶ森層 Sa部層	凝灰岩	ジルコン	0.20	200	18.4 ± 0.1	レーザーアブレーション ICP質量分析計

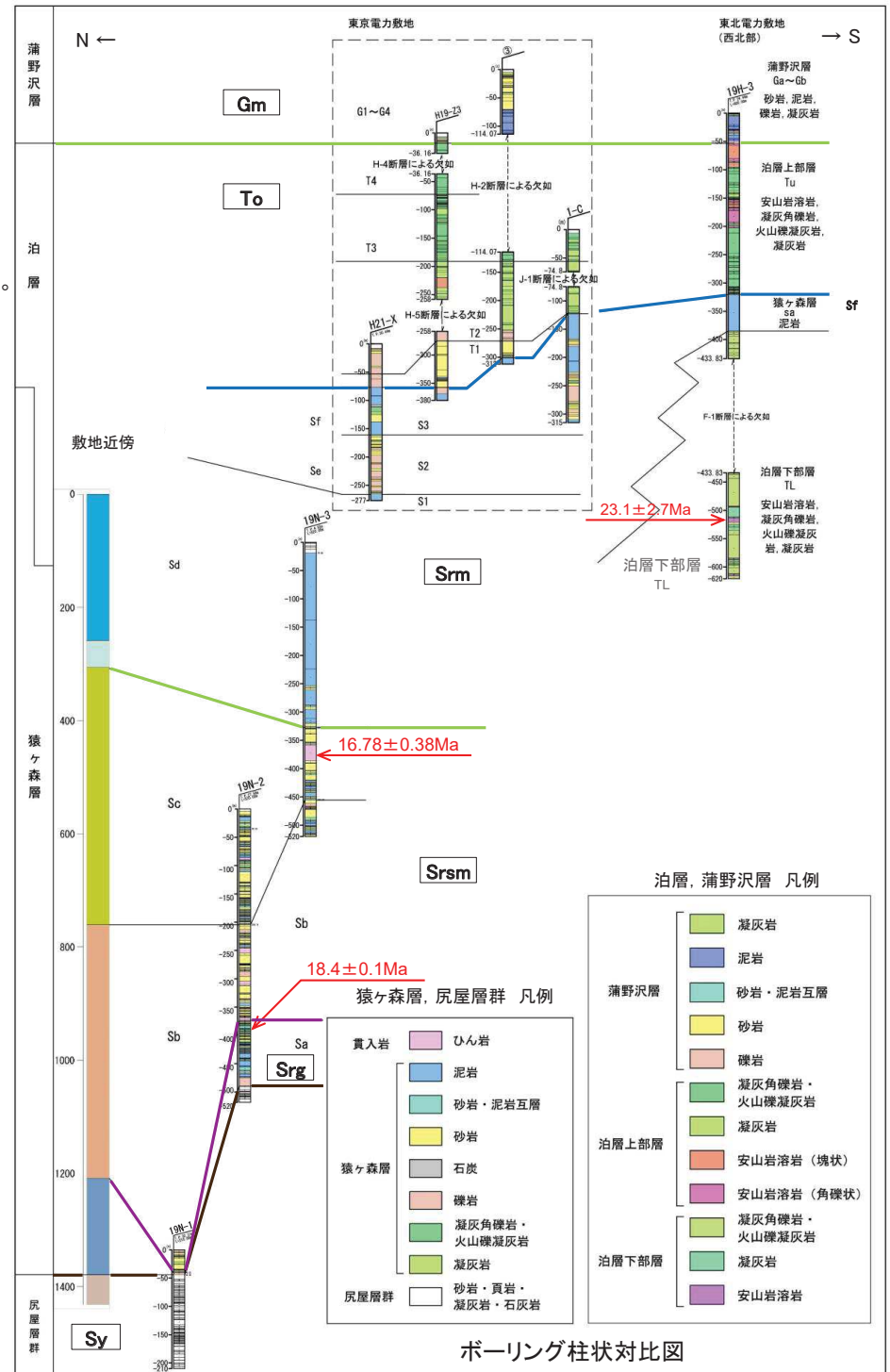
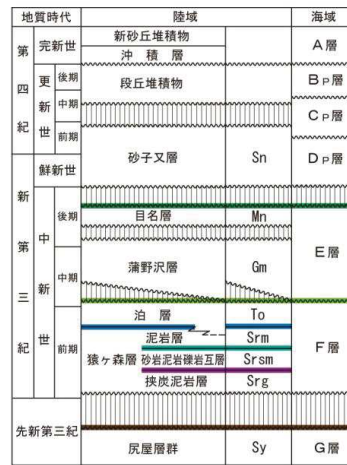
K-Ar年代測定結果 (測定機関: 株式会社山形地質年代学研究所)

試料名	ボーリング名	地層名	岩相	測定物 (粒径)	カリウム含有量 (wt.%)	放射性起源 <sup>40</sup> Ar (10 <sup>-8</sup> cc STP/g)	K-Ar年代 (Ma)	非放射性起源 <sup>40</sup> Ar (%)
N3-D1	19N-3	貫入岩	ひん岩	斜長石 (50-100μm)	1.979 ± 0.040	129.4 ± 1.4	16.78 ± 0.38	7.6
H3-L1	19H-3	泊層下部層	安山岩	斜長石 (50-100μm)	0.072 ± 0.007 <sup>※1</sup>	6.49 ± 0.40	23.1 ± 2.7	77.7

※1 低カリウム試料 (0.2wt. 未満) のため、極低プランク法 (Itaya et al. 1996) による分析を実施。複数回の分析により誤差がないことを確認した。

猿ヶ森層の層序区分

部層名	岩相	化石
Sf	泥岩, 砂岩, 礫岩, 軽石質砂岩 (東京電力敷地では凝灰角礫岩, 火山礫凝灰岩を挟む)	二枚貝
Se	砂岩, 礫岩を主とする	未確認
Sd	泥岩を主とする	二枚貝, 巻貝, ウミウリ, ウニ類, 有孔虫, サガリテス
Sc	砂岩, 泥岩を主とする	二枚貝, 巻貝, サガリテス, 炭化植物片, 生物擾乱痕
Sb	砂岩, 礫岩を主とする	炭化植物片, 生物擾乱痕
Sa	基底は角礫岩よりなり, 泥岩を主とし, 石炭を挟在する	炭化植物片, 生物擾乱痕

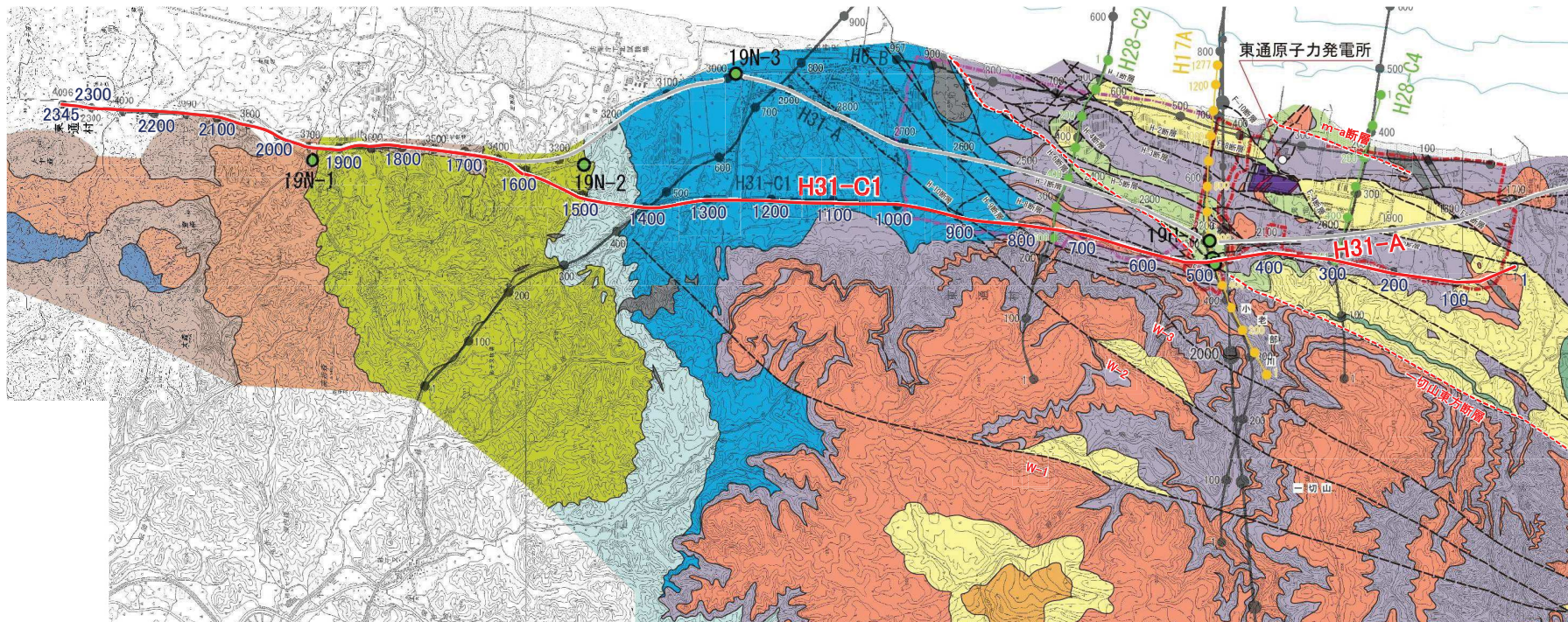
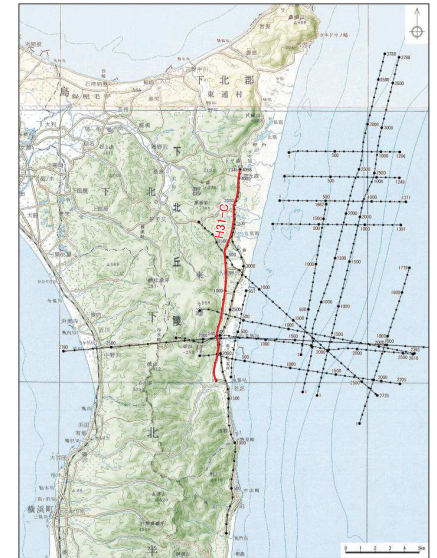


ボーリング柱状対比図

# 南北測線における層序の検討：H31-C1測線における地質層序の検討①

H31-A測線の北端と同じ地点を起点に、19N-2孔よりやや北の地点から西側に分岐し、H31-A測線と並行する南北測線として、反射法地震探査(H31-C1測線)を実施した。

- 敷地(西側)から北方陸域にかけて、H31-A測線と同様に連続的な反射法地震探査結果が得られた。
  - ✓ H31-A測線と概ね同様の反射パターンを示す。
- ボーリング調査により直接確認した地質境界に基づき決定したH31-A測線の層序区分・地質境界から、H28-Line2測線を介してH31-C1測線に展開が可能であり(次々頁)、H31-A測線と同様の地質分布・地質構造であることを確認した。
  - ✓ 北側より、基盤をなす尻屋層群(Sy)を覆って、中新統猿ヶ森層の挟炭泥岩層(Srg)、砂岩泥岩礫岩互層(Srsm)及び泥岩層(Srm)が分布しており、南側に10~30°程度傾斜している。

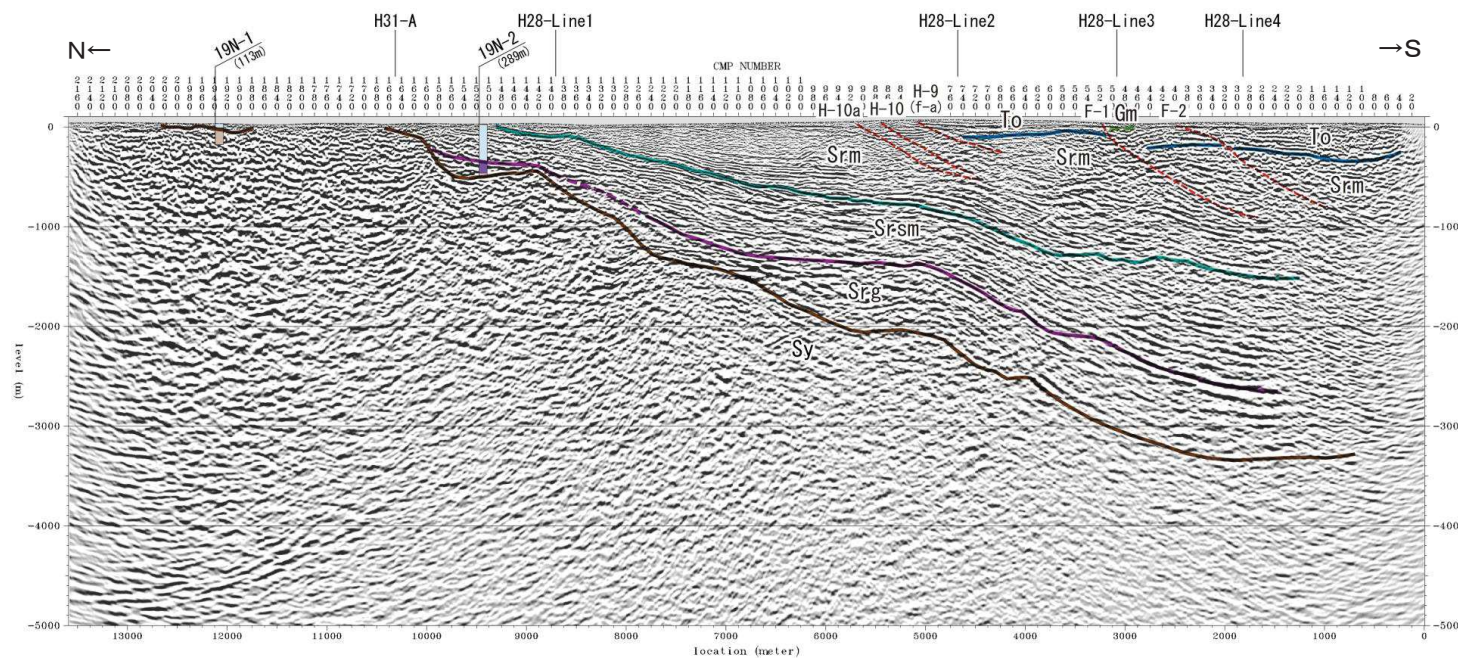


凡例

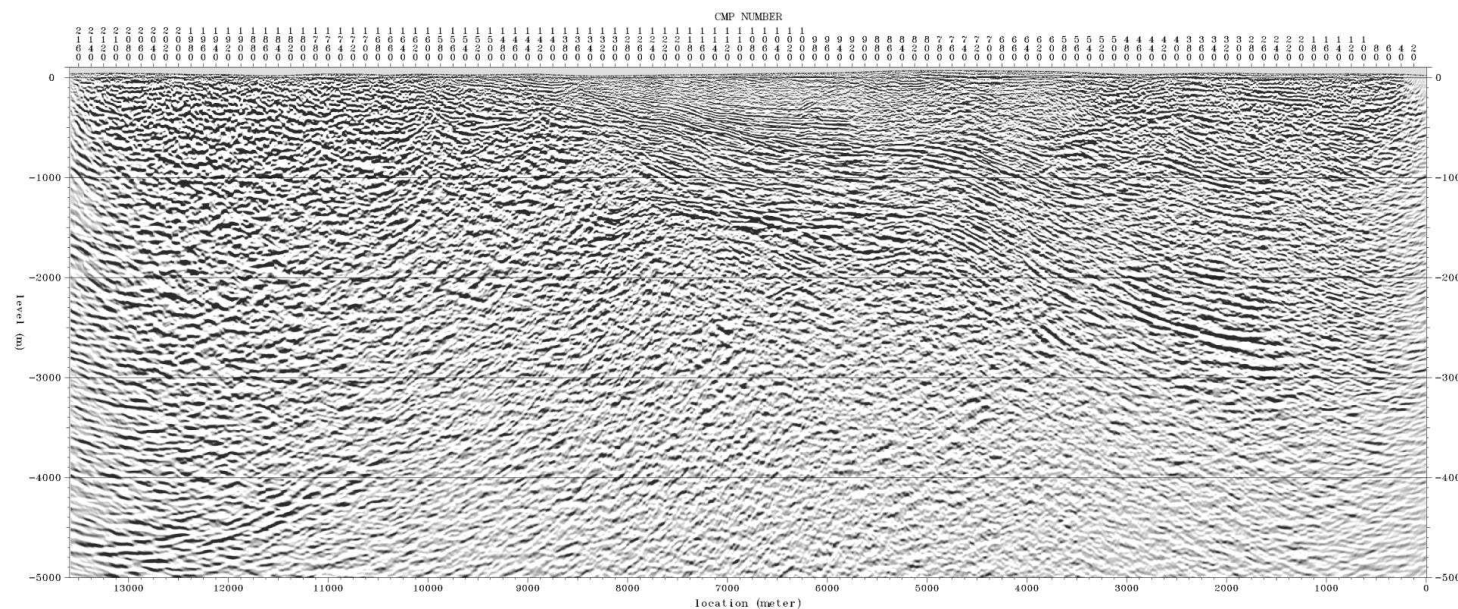
目名層	軽石質砂岩層	
	泥岩層	
浦野沢層	砂岩層	
	砂質泥岩層・礫岩層	
泊層	安山岩質(一部玄武岩質)溶岩層	
	火山砕屑岩類	
泊層下部(東北電力のり)	安山岩質溶岩層	
	泥岩層(砂岩・礫岩含む)	
	泥質砂岩優勢砂岩泥岩互層	
猿ヶ森層	砂岩泥岩互層	
	礫岩砂岩泥岩互層	
	挟炭泥岩層	
尻屋層群	貫入岩	
断層	断層	
層理面の走向・傾斜	断層面の走向・傾斜	
断層露頭位置・番号	断層露頭位置・番号	
珪藻化石産出露頭位置(Crucidentacula kanayae zone)	ボーリング位置・番号	
反射法地震探査解析測線(数字はCMP番号)	敷地境界(東北電力)	
	敷地境界(東京電力)	

※東京電力所轄地内は東通1号が申請書による

# 南北測線における層序の検討: H31-C1測線における地質層序の検討②



地質時代	陸域	海域
第四紀	新砂丘堆積物	A層
	沖積層	
	段丘堆積物	B層
		C層
鮮新世	砂子又層	Sn D層
第三紀	目名層	Mn
	蒲野沢層	Gm E層
	泊層	To
	泥岩層	Sr.m F層
前期	猿ヶ森層 砂岩泥岩礫岩互層	Sr.sm
	挟炭泥岩層	Srg
先新第三紀	尻屋層群	Sy G層

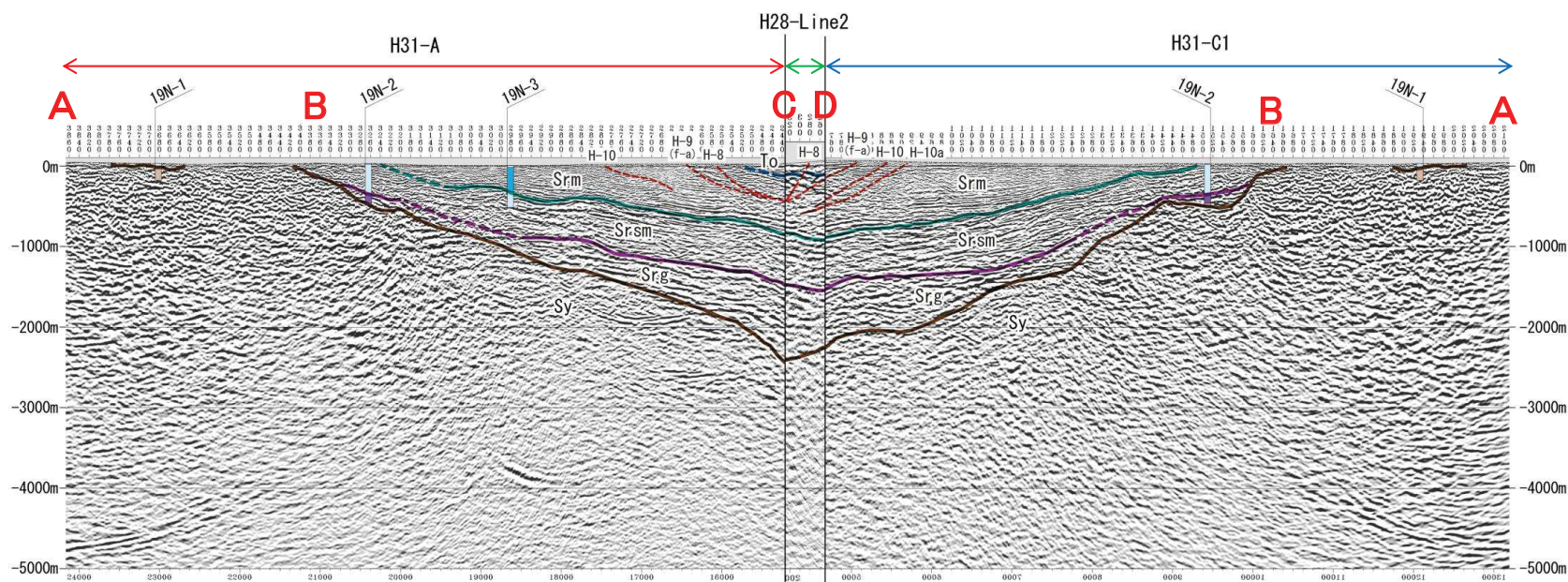
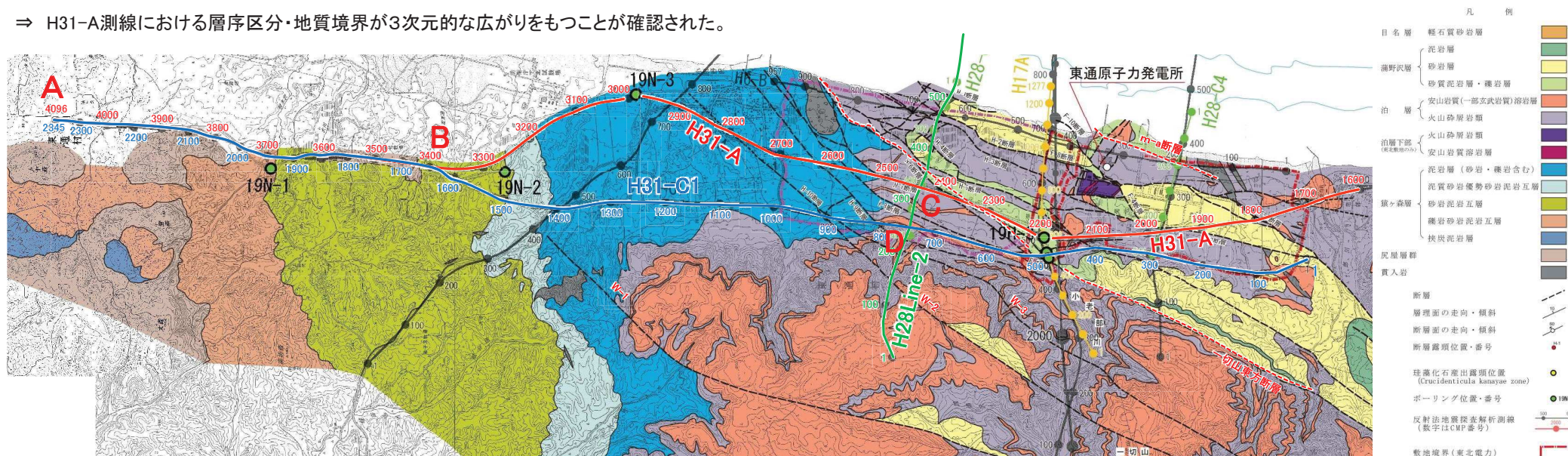


H31-C1 マイグレーション深度断面(縦横比1:1)

# 南北測線における層序の検討: 猿ヶ森層の3次元的な連続性の検討

➢ ボーリング調査により直接確認した地質境界に基づき決定したH31-A測線の層序区分・地質境界から、H28-Line2測線を介してH31-C1測線に展開が可能であり、H31-A測線と同様の地質分布・地質構造であることを確認した。

⇒ H31-A測線における層序区分・地質境界が3次元的な広がりをもつことが確認された。



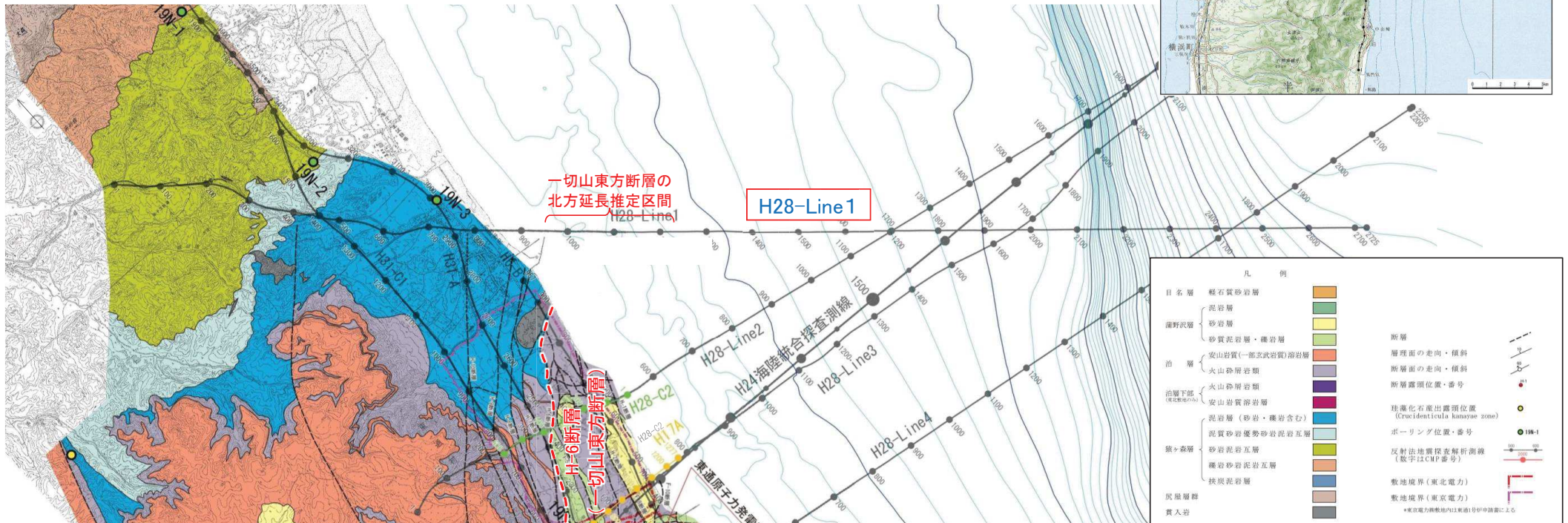
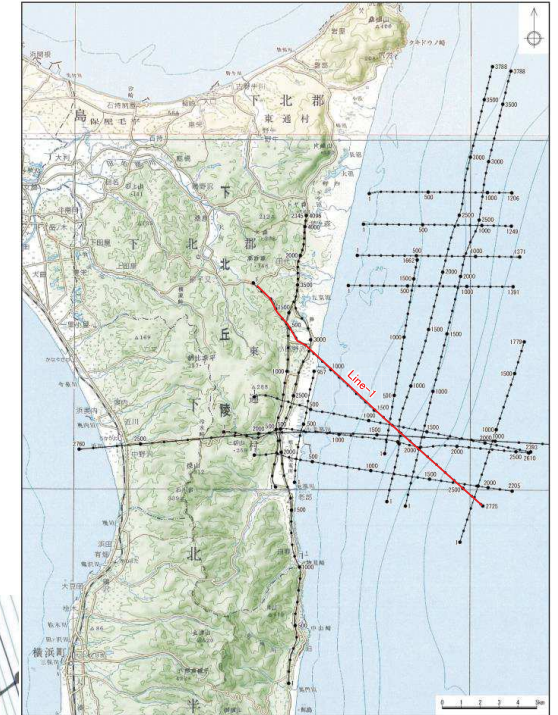
余 白

### 6.3.5.2 反射法地震探査結果の層序区分

## H28-Line1測線の層序区分①

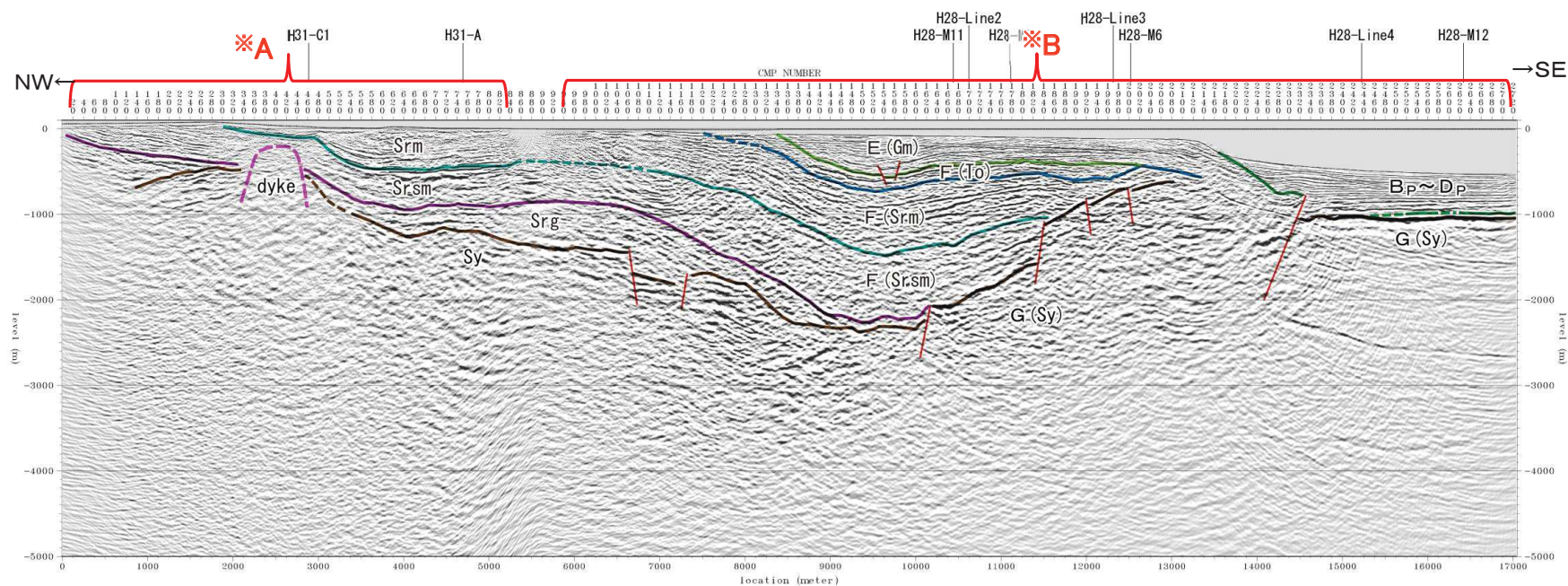
H28-Line1測線について、ボーリング調査により直接確認した地質境界に基づき決定されたH31-A測線及びH31-C1測線の層序区分を踏まえて層序区分を行った。

- H28-Line1測線の層序区分及び地質分布は、従来のH28-Line1測線の解釈と概ね同様の層序区分及び地質分布となっている。
- ✓ 連続性の良い比較的強い反射面が複数見られ、これらの面を境に層相(反射面パターンの特徴)、下位層との構造の違い等から、上位より蒲野沢層(Gm)、泊層(To)、猿ヶ森層泥岩層(Srm)、同 砂岩泥岩礫岩互層(Srsm)及び同 挟炭泥岩層(Srg)並びに尻屋層群(Sy)に区分される。
- ✓ 陸域において、猿ヶ森層(泥岩層(Srm)、砂岩泥岩礫岩互層(Srsm)及び挟炭泥岩層(Srg))が、南東方向への緩傾斜～ほぼ水平な構造で連続する。(※A)
- ✓ 陸域で確認された猿ヶ森層の泥岩層(Srm)、砂岩泥岩礫岩互層(Srsm)とその下位に想定される挟炭泥岩層(Srg)が、境界の強い反射面とともに、海域にかけて比較的良く連続している。
- ✓ 海域の層序区分及び地質分布については概ね変更はない。(※B)

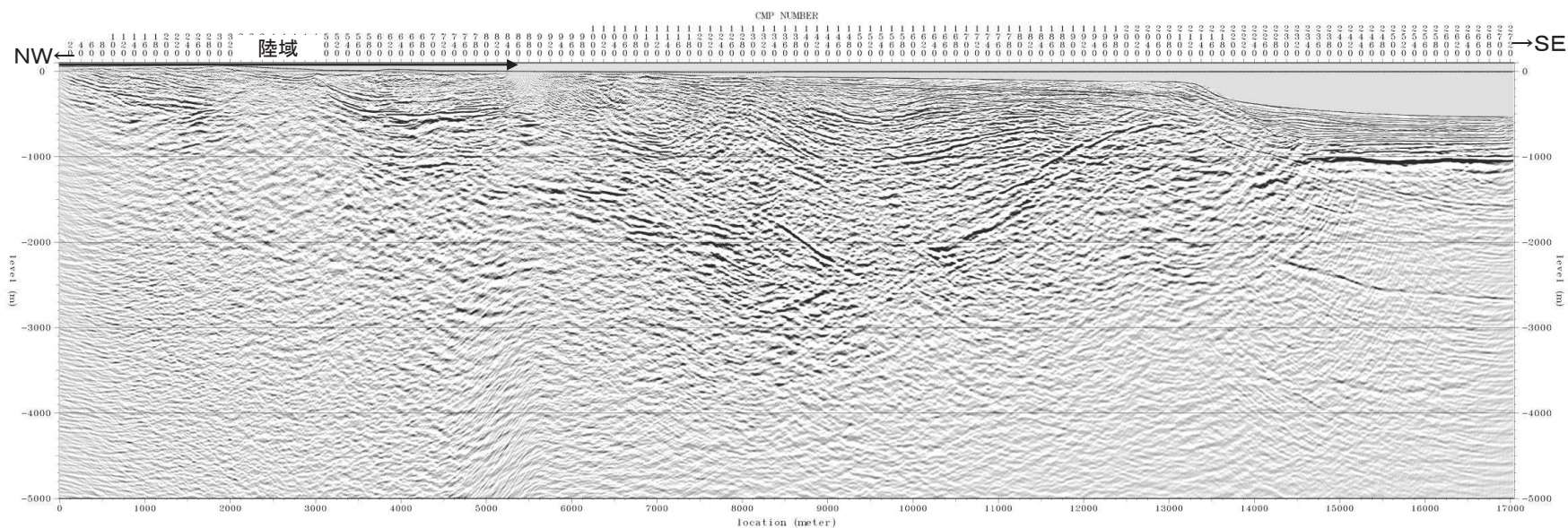




# 6.3.5.2 反射法地震探査結果の層序区分 H28-Line1測線の層序区分②



地質時代	陸域	海域
完新世	新砂丘堆積物	A層
	沖積層	
更新世	段丘堆積物	B層
		C層
		D層
鮮新世	砂子文層	Sn
		D層
新第三紀	目名層	Mn
	蒲野沢層	Gm
	泊層	To
紀世	泥岩層	Srm
	猿ヶ森層 砂岩層 砂岩層互層	Srsm
	挟炭泥岩層	Srg
先新第三紀	尻屋層群	Sy, G層



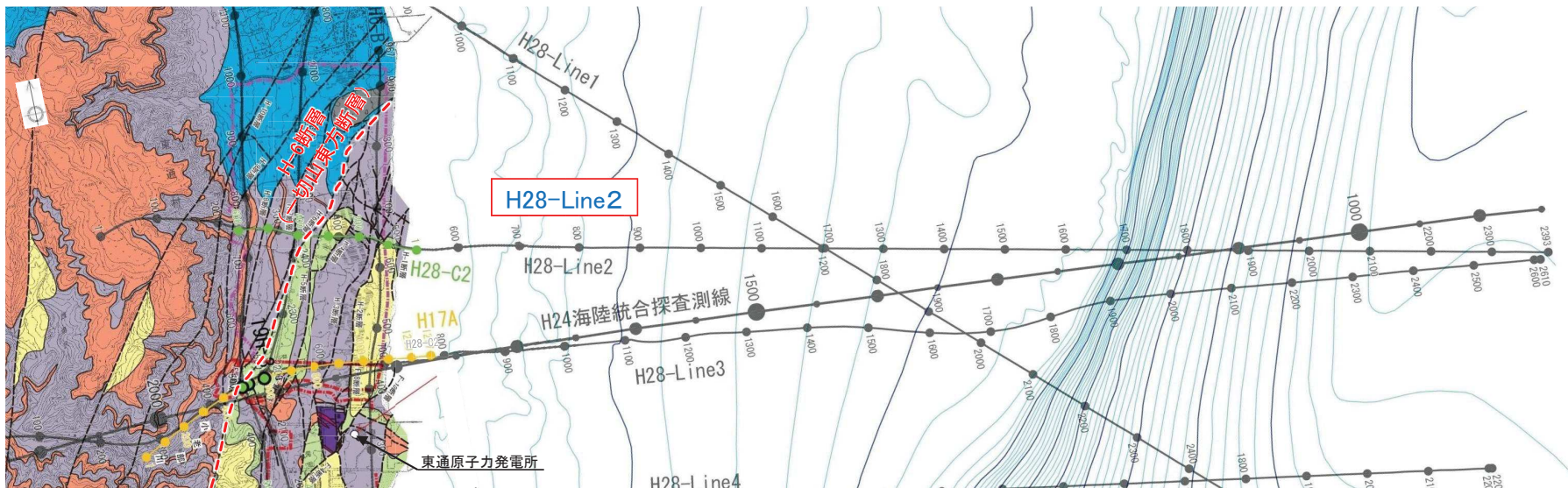
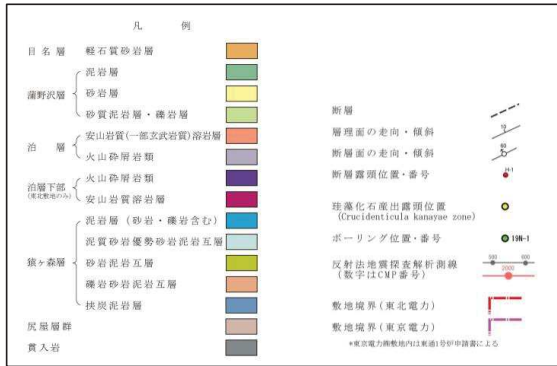
H28-Line1 マイグレーション深度断面(縦横比1:1)

### 6.3.5.2 反射法地震探査結果の層序区分

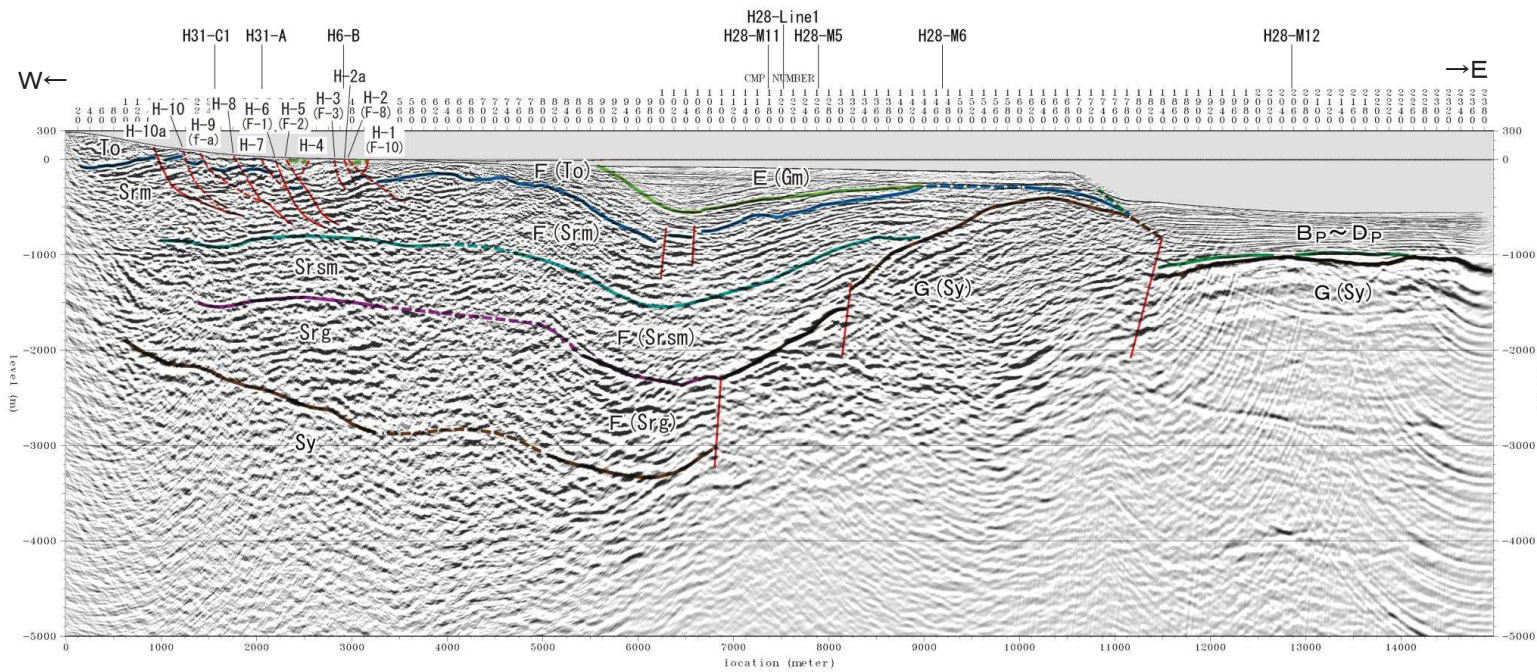
## H28-Line2測線の層序区分①

H28-Line2測線について、ボーリング調査により直接確認した地質境界に基づき決定されたH31-A測線及びH31-C1測線の層序区分を踏まえて層序区分を行った。

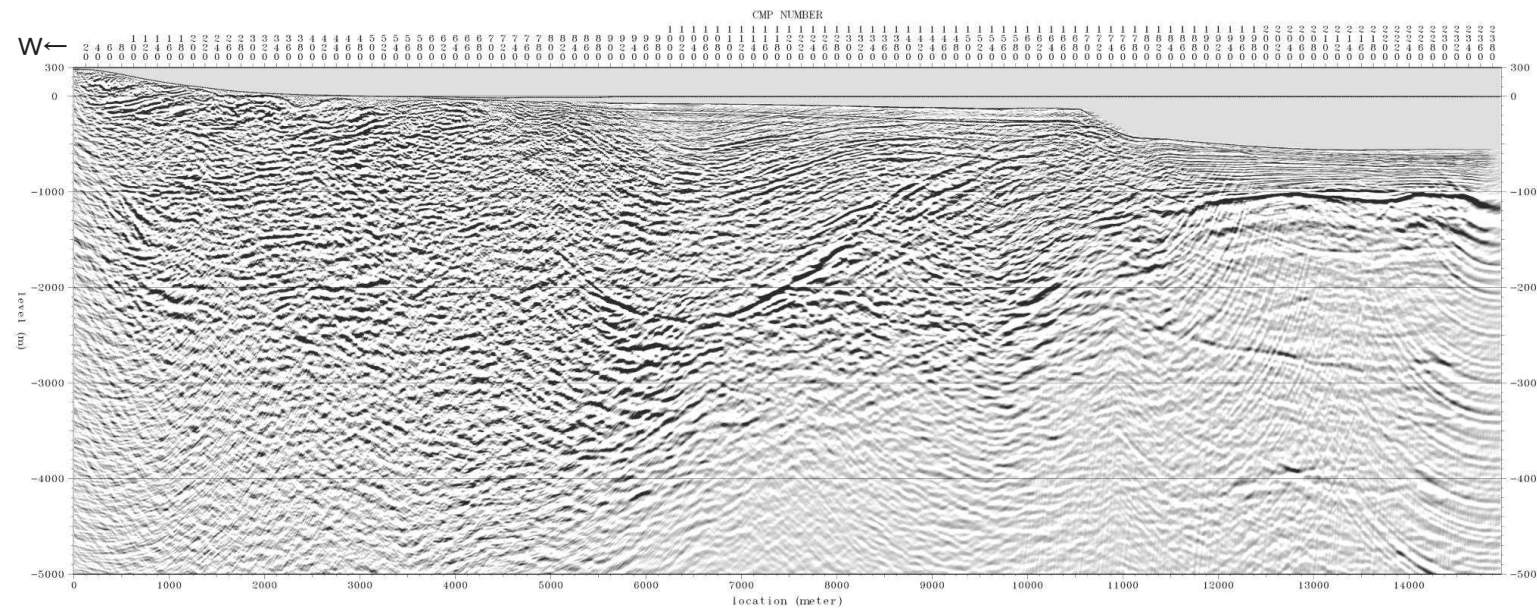
- H28-Line2測線の層序区分及び地質分布は、従来のH28-Line2測線の解釈と概ね同様の層序区分及び地質分布となっている。
  - ✓ 連続性の良い比較的強い反射面が複数見られ、これらの面を境に層相(反射面パターンの特徴)、下位層との構造の違い等から、H28-Line1測線の探査結果と同様に、上位より蒲野沢層(Gm)、泊層(To)、猿ヶ森層泥岩層(Srm)、同砂岩泥岩礫岩互層(Srsm)及び同挟炭泥岩層(Srg)並びに尻屋層群(Sy)に区分される。
  - ✓ 陸域において、基盤をなす尻屋層群(Sy)の分布については、H31-A測線及びH31-C1測線の調査結果を踏まえて見直した。
  - ✓ 海域の層序区分及び地質分布については概ね変更はない。



# H28-Line2測線の層序区分②



地質時代	陸域	海域
第 四 紀	新砂丘堆積物 沖積層	A層
	段丘堆積物	B層
更新世		C層
	砂子又層	D層
鮮新世		
	目名層	Mn
新 中 世	蒲野沢層	Gm
	泊層	To
紀 世	泥岩層	Srm
	猿ヶ森層 砂岩泥岩礫岩互層	Srsm
	挟炭泥岩層	Srg
先新第三紀	尻屋層群	Sy, G層

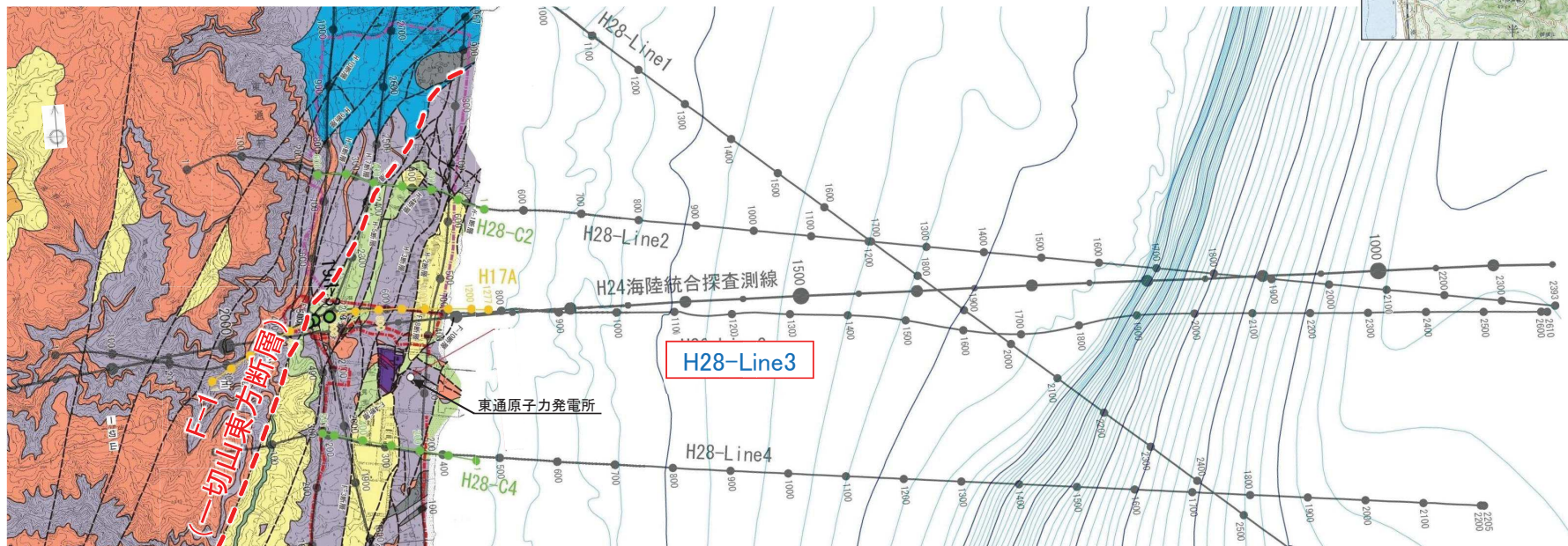
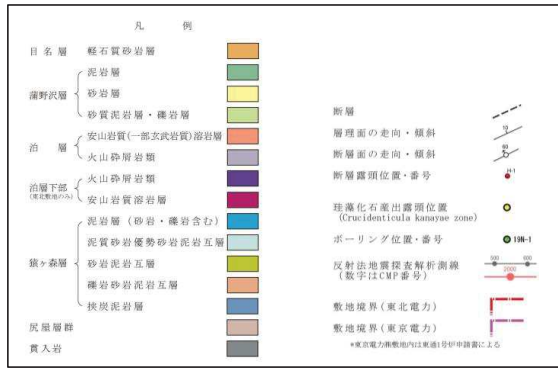


H28-Line2 マイグレーション深度断面(縦横比1:1)

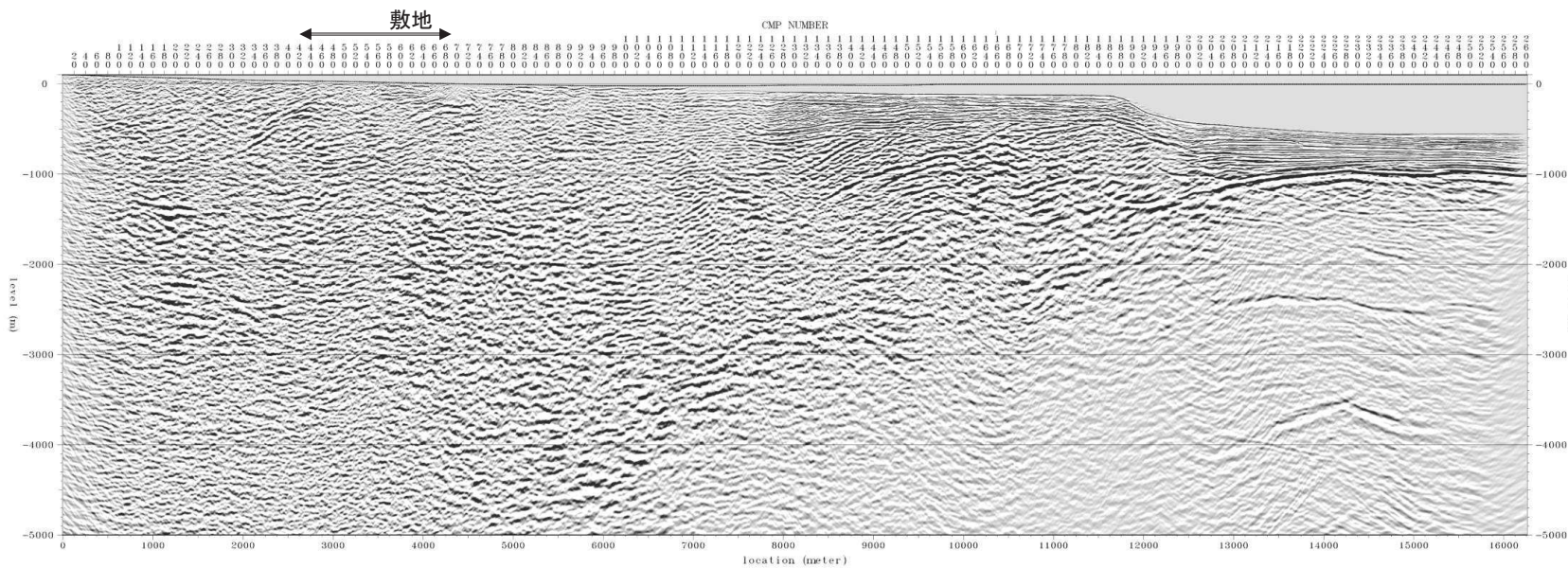
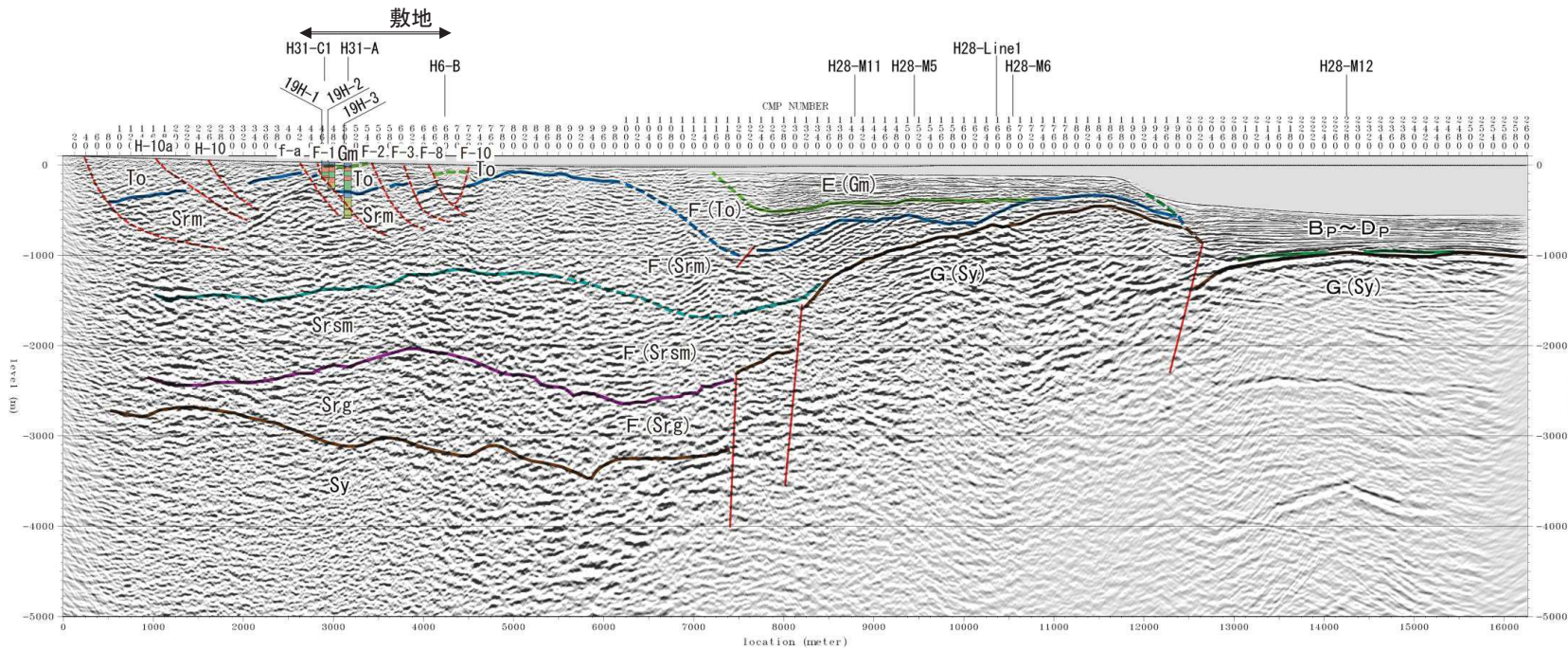
# H28-Line3測線の層序区分①

H28-Line3測線について、ボーリング調査により直接確認した地質境界に基づき決定されたH31-A測線及びH31-C1測線の層序区分を踏まえて層序区分を行った。

- H28-Line3測線の層序区分及び地質分布は、従来のH28-Line3測線の解釈と概ね同様の層序区分及び地質分布となっている。
  - ✓ 連続性の良い比較的強い反射面が複数見られ、これらの面を境に層相(反射面パターンの特徴)、下位層との構造の違い等から、H28-Line1測線の探査結果と同様に、上より蒲野沢層(Gm)、泊層(To)、猿ヶ森層泥岩層(Srm)、同 砂岩泥岩礫岩互層(Srsm)及び同 挟炭泥岩層(Srg)並びに尻屋層群(Sy)に区分される。
  - ✓ 海域の層序区分及び地質分布については概ね変更はない。



# H28-Line3測線の層序区分②



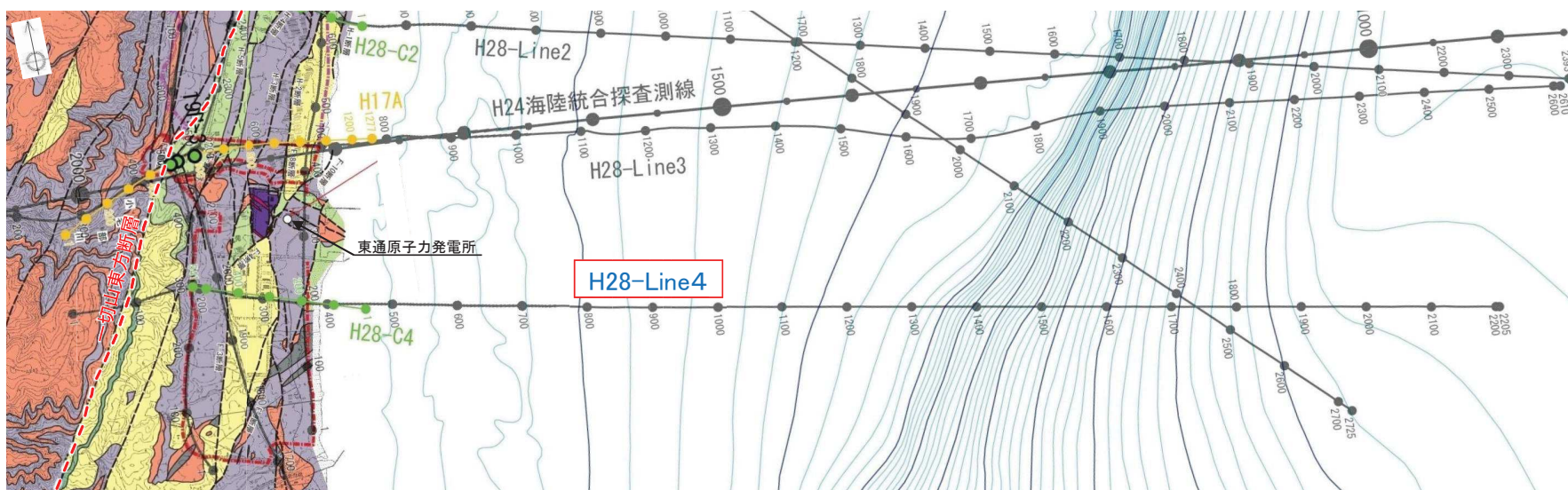
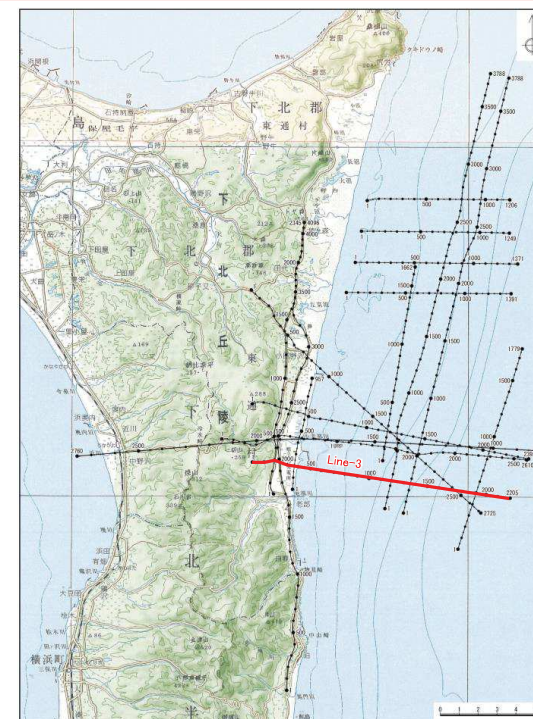
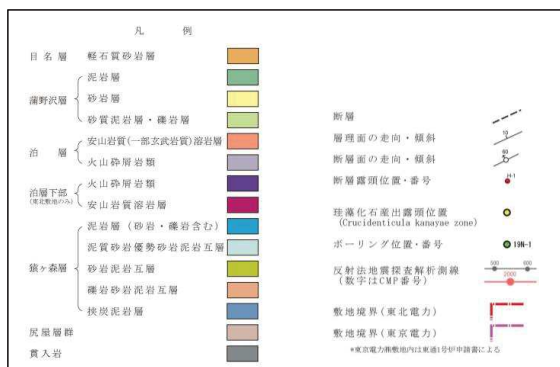
地質時代	陸域	海域
第四紀	新砂丘堆積物	A層
	沖積層	
	段丘堆積物	B <sub>P</sub> 層
更新世	中期	C <sub>P</sub> 層
	前期	砂子又層 S <sub>n</sub>
鮮新世		D <sub>P</sub> 層
	後期	目名層 M <sub>n</sub>
第三紀	中期	E層
	前期	薄野沢層 G <sub>m</sub>
	前期	泊層 To
先新第三紀		F層
		泥岩層 S <sub>rm</sub>
		猿ヶ森層 砂岩泥岩礫岩互層 S <sub>rsm</sub>
	狭炭泥岩層 S <sub>rg</sub>	
	炭層群 Sy	G層

H28-Line3 マイグレーション深度断面(縦横比1:1)

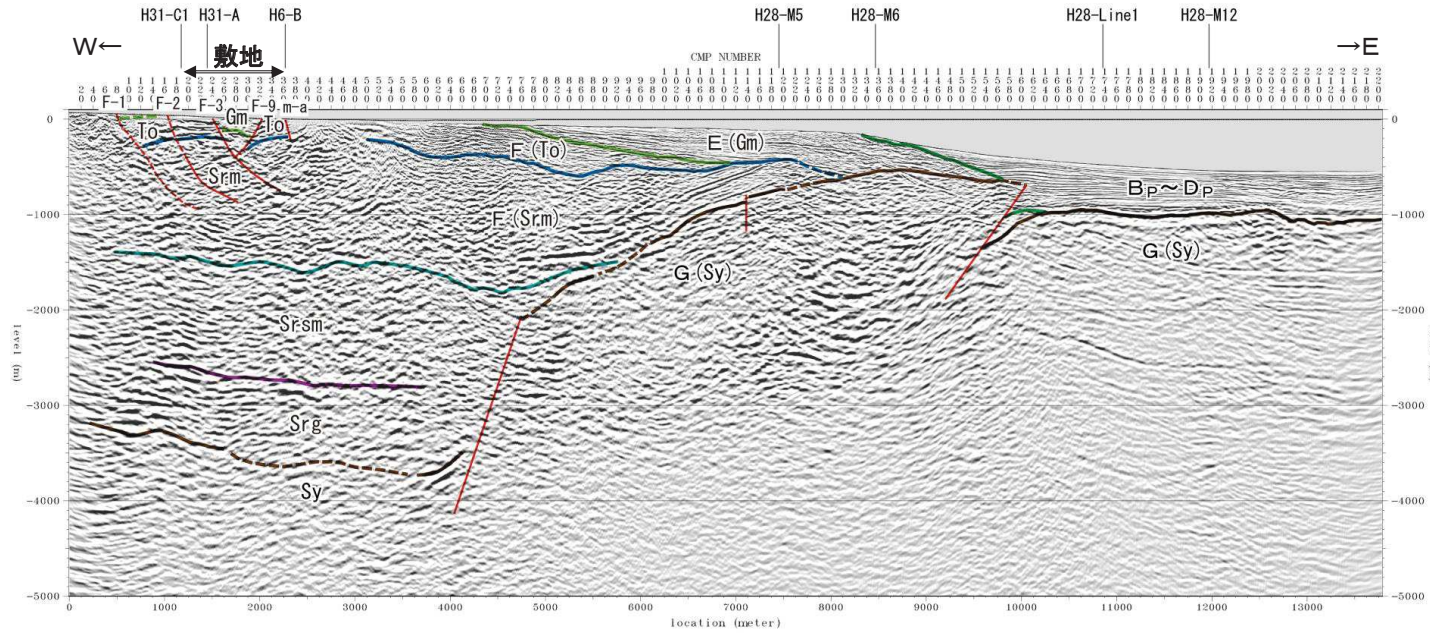
# H28-Line4測線の層序区分①

H28-Line4測線について、ボーリング調査により直接確認した地質境界に基づき決定されたH31-A測線及びH31-C1測線の層序区分を踏まえて層序区分を行った。

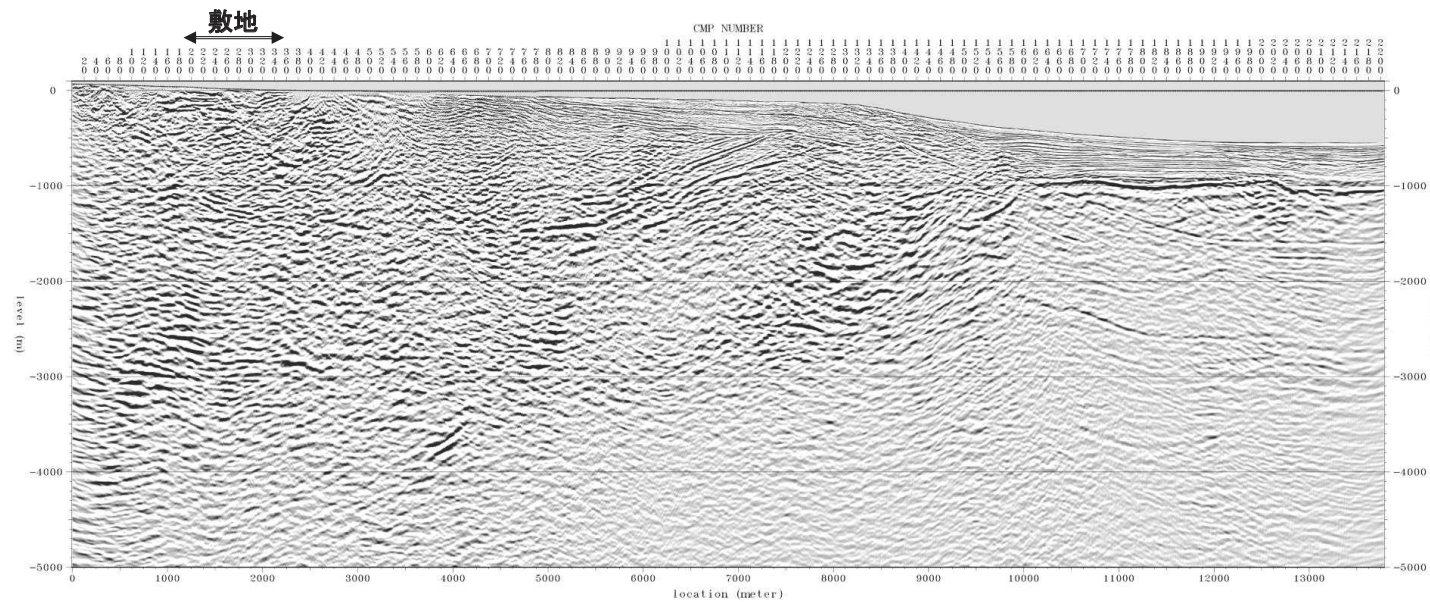
- H28-Line4測線の層序区分及び地質分布は、従来のH28-Line4測線の解釈と概ね同様の層序区分及び地質分布となっている。
  - ✓ 連続性の良い比較的強い反射面が複数見られ、これらの面を境に層相(反射面パターンの特徴)、下位層との構造の違い等から、H28-Line1測線の探査結果と同様に、上より蒲野沢層(Gm)、泊層(To)、猿ヶ森層泥岩層(Srm)、同 砂岩泥岩礫岩互層(Srsm)及び同 挟炭泥岩層(Srg)並びに尻屋層群(Sy)に区分される。
  - ✓ 海域の層序区分及び地質分布については概ね変更はない。



# 6.3.5.2 反射法地震探査結果の層序区分 H28-Line4測線の層序区分②



地質時代	陸域	海域
第四紀	新砂丘堆積物	A層
	沖積層	
	段丘堆積物	B層
		C層
更新世		D層
	砂子又層	Sr
新第三紀	目名層	E層
	蒲野沢層	
	泊層	To
	泥岩層	Srsm
中新世	猿ヶ森層 砂岩泥岩礫岩互層	F層
	狭炭泥岩層	
先新第三紀	尻屋層群	G層
		Sy



H28-Line4 マイグレーション深度断面(縦横比1:1)

## 層序区分のまとめ

敷地北方の尻屋層群分布域を起点に、敷地～敷地近傍を南北に縦断する反射法地震探査(H31-A測線及びH31-C1測線)を実施した。合わせて、地下深部の地質状況を直接確認することを目的にボーリング調査(19N-1孔, 19N-2孔, 19N-3孔及び19H-3孔)を実施するとともに、猿ヶ森層の詳細な層序検討を目的として地表地質踏査を実施した。

- ▶ ボーリング調査結果やボーリング地点付近に分布する猿ヶ森層の岩相との対応を踏まえ、猿ヶ森層の層序区分及び地質分布について検討した。
  - ✓ 確認された岩相に基づき、猿ヶ森層の層序区分を下位より「挟炭泥岩層(Srg)」、礫岩砂岩泥岩互層及び砂岩泥岩互層からなる「砂岩泥岩礫岩互層(Srsm)」並びに泥質砂岩優勢砂岩泥岩互層及び泥岩層からなる「泥岩層(Srm)」に整理し、区分した。
  - ✓ 敷地近傍の地質図について、地表地質踏査の結果に基づき、猿ヶ森層の層序区分を踏まえた地質分布を反映した。
- ▶ 敷地から北方にかけて、連続的な反射法地震探査結果(H31-A測線)が得られた。
  - ✓ H28-U5測線範囲においては、H28-U5測線と同様の品質の反射法地震探査結果が得られるとともに、同範囲北方への反射面の追跡が可能となった。
- ▶ ボーリング調査結果等により、猿ヶ森層はSa～Sf部層に区分された。
  - ✓ 反射法地震探査結果の層序は、「挟炭泥岩層(Srg)」がSa部層に、「砂岩泥岩礫岩互層(Srsm)」がSb～Sc部層に、「泥岩層(Srm)」がSd～Sf部層及に対応する。
  - ✓ 反射法地震探査測線の解釈において、猿ヶ森層の泥岩層(Srm)と指交関係にある泊層下部層は猿ヶ森層の泥岩層(Srm)に含めている。
- ▶ ボーリング調査結果と反射法地震探査結果より、従来の解釈から想定されていた層序区分の地質境界を直接確認した。
  - ✓ 19N-3孔において、猿ヶ森層の泥岩層(Srm)／砂岩泥岩礫岩互層(Srsm)境界を確認。
  - ✓ 19N-2孔において、猿ヶ森層の砂岩泥岩礫岩互層(Srsm)／挟炭泥岩層(Srg)境界及び猿ヶ森層の挟炭泥岩層(Srg)／尻屋層群(Sy)境界を確認。
- ▶ ボーリング調査にて確認された各々の地質境界は、比較的明瞭な反射面と良く対応しており、敷地まで連続的に追跡が可能であることを確認。
- ▶ ボーリング調査により直接確認した地質境界に基づき決定したH31-A測線の層序区分・地質境界から、H28-Line2測線を介してH31-C1測線に展開が可能であり、H31-A測線と同様の地質分布・地質構造であることを確認したことから、今回の調査によって確認された層序区分・地質境界が3次元的な広がりをもつことが確認された。
- ▶ 反射法地震探査及びボーリング調査により決定された地質分布・地質構造は、従来の評価と概ね同様であることを確認した。
  - ✓ 北側より、基盤をなす尻屋層群(Sy)を覆って、中新統猿ヶ森層の挟炭泥岩層(Srg)、砂岩泥岩礫岩互層(Srsm)及び泥岩層(Srm)が分布しており、南東側に緩傾斜を示す。



従来の層序区分から信頼性が向上するとともに、強い反射面は明瞭な地質境界に対応しているとする考えに基づいた従来の層序区分についても合理的なものであったことが確認された。

⇒ 断層活動性評価にあたって基本となる反射法地震探査記録の解釈の信頼性向上が図られた。